ONKYO®

デジタルサラウンドシステム

HTX-22HD

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

※マイコンのリセットについては、74ページをご覧ください。

目次

はじめに

接続する

初期設定をする

目次

再生する

リスニングモードを楽しむ

設定をする（応用編）

その他

主な特長

主な仕様

■ 7.1チャンネルに拡張可能な5.1チャンネルアンプ内蔵サブウーファー
■ TVのリモコン1つで他社製TVと本機がシステムリンク(RIHD)

音質設計

■ 電源・GND強化にBUSBAR採用
■ 24ビット/192kHz D/Aコンバーター搭載
■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC*1（Vector Linear Shaping Circuitry）搭載
■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■ 高品位な低音増強を可能にするバスレフ技術「AERO ACOUSTIC DRIVE」を搭載

音声機能

■ ドルビー*2デジタルプラス、ドルビーTrueHD再生可能
■ DTS*3-HDハイレゾリューションオーディオ、DTS-HDマスターオーディオ、DTS Express再生可能
■ AAC*4デコーダー搭載
■ 高品位バーチャルサラウンド機能「Theater-Dimensional*5」&「DTS サラウンドセンセーション」搭載
■ 圧縮された音楽ファイルをより良い音で楽しむMusic Optimizer*6機能搭載
■ 音声と映像のズレを補正するAVシンクコントロール機能搭載
■ 付属の測定用マイクで自動スピーカー（Audyssey 2EQ*7）設定
■ 小音量でもサラウンドを楽しめるLATE NIGHT機能（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD時のみ）
■ 小音量でもサラウンドを楽しめるDynamic EQ 機能搭載
■ Intelli Volume機能

入出力系統

■ デジタル音声/映像信号を1本のケーブルで伝送可能なHDMI*8入力2系統、出力1系統装備
■ デジタル入力端子として光2系統/同軸1系統装備

付属のサテライトスピーカー

■ ウーファー振動板に強靭な振動数ならではの力強さと、小口径8cmユニットの緻密さを併せ持つ再現性豊かなA-OMFコーン搭載
■ ツィーター振動板にバランスドーム型を採用

*1 VLSCは、オンキヨー株式会社の登録商標です。
*2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic” およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*3 合衆国特許権に基づき製造されています。
USパテントナンバー： 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535
DTSはDTS社の登録商標です。
DTSロゴ、DTS-HD, DTS-HD Master AudioおよびDTS Surround SensationはDTS社の商標です。
© 1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.
*4 AACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*5 Theater-Dimensionalは、オンキヨー株式会社の商標です。
*6 Music Optimizerは、オンキヨー株式会社の商標です。
*7 Audyssey Laboratoriesからの実施権に基づき製造されています。Audyssey 2EQとDynamic EQはAudyssey Laboratoriesの商標です。
*8 HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
＊x.v.Colorは、ソニー株式会社の商標です。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表わす記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告	誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた
△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⊘記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの背面に通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。
- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない（本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。
- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

⚠ 警告

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔、ダクトから異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■ 乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

注意

スピーカーを壁に取り付けるときは、壁の材質、また、桟などの位置に注意してください。（ネジの保持強度に大きな差が出ますので、販売店にご相談ください。）

■ 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

⚠ 注意

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災･感電の原因となります。

■ 電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■ キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったり、データが消失することがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。落下や転倒してけがの原因となります。サランネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

■ 機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

スピーカー取り扱い上のご注意

■お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■テレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

■取り扱い上のご注意

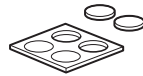
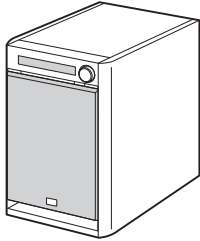
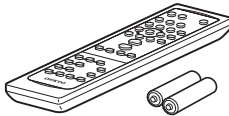
本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

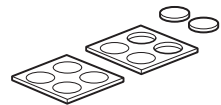
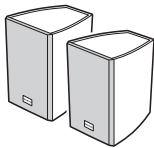
① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

箱を開けたら、まず

箱の中身を確認する

ご使用の前に次のものがそろっていることをお確かめください。(　)内の数字は数量を表しています。

- アンプ内蔵サブウーファー（1）（HTX-22HDPAW）
- オーディオ用光デジタルケーブル 1.5m（1）
- サブウーファー用コルクスペーサー（1組〈4個〉）

- リモコン（RC-678S）（1）
- 乾電池（単3形）（2）
- 測定用マイク（1）
- 電源コード（1）

- 取扱説明書（本書)(1)
- 保証書（1）
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内（1）
- ユーザー登録カード（1）

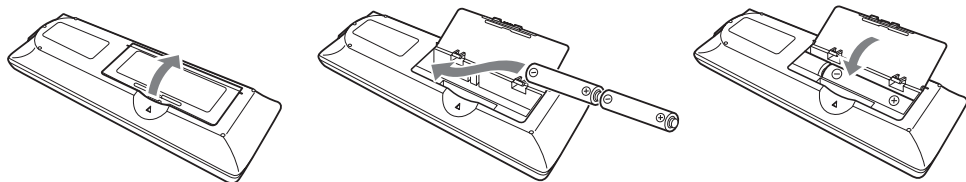
- サテライトスピーカー（HTX-22HDST）（2）
- スピーカーコード（サテライトスピーカー用）3.5m（赤 1、白 1）
- サテライトスピーカー用コルクスペーサー(2 組〈8 個〉)

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

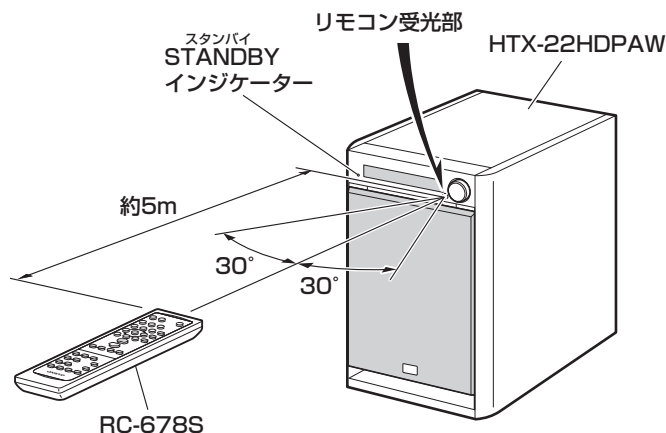
リモコンの乾電池の入れかたと交換のしかた

① カバーを矢印の方向に持ち上げる。

② 中の極性表示にしたがって、付属の電池2個をプラス⊕、マイナス⊖を間違えないように入れる。

③ カバーを戻す。

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池（単3形）と交換してください。

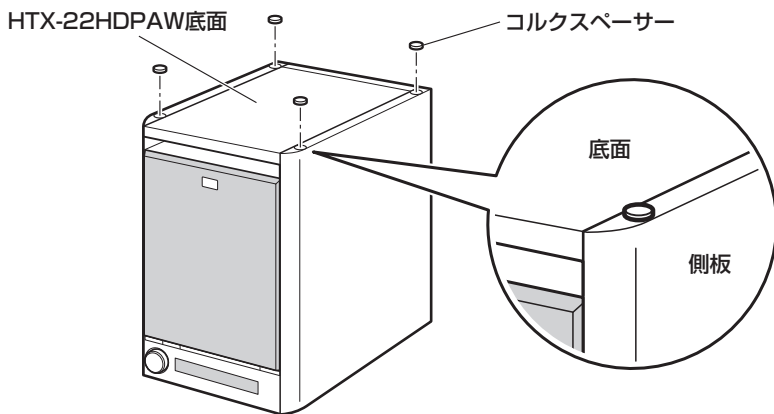
- 電池の極性（⊕、⊖）は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

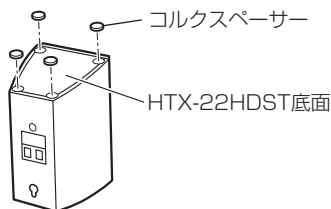
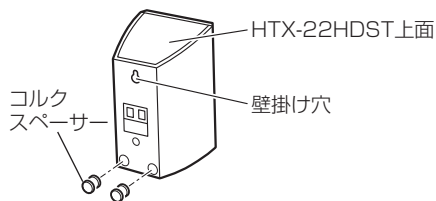
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

付属のコルクスペーサーを使う

■ サブウーファー(HTX-22HDPAW)用コルクスペーサー

より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。底面にかからないよう、側板の下の部分に貼ってください。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

■ サテライトスピーカー(HTX-22HDST)用コルクスペーサー

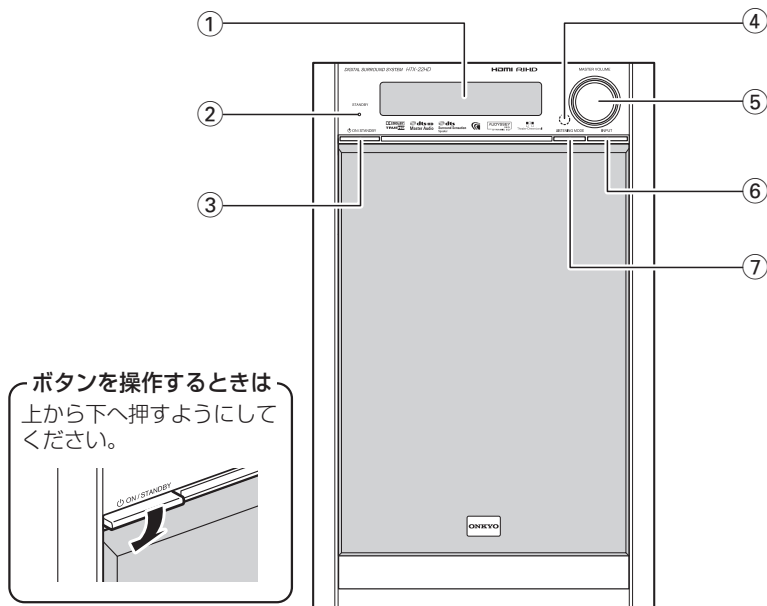
より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

たて置きの場合

壁に掛けて使用する場合

コルクスペーサーは2枚重ねて2ケ所に貼り付けると、安定して設置できます。

ご注意

壁に掛けて使用する場合、壁の強度に十分注意してください。壁はその材質、また桟(さん)などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては十分注意してください。
壁につけるネジは、頭の直径が4mm以上10mm以下、ネジの直径が4mm以下で、できるだけ太く、長いものをご使用ください。(壁等に取り付ける際は、専門施工業者へ依頼することをおすすめします。取り付けの不備によって損害や事故が発生した場合、当社では一切責任を負うことができませんのでご了承ください。)

各部の名前と働き

前面パネル

① 表示部
13ページをご覧ください。

② STANDBY（スタンバイ）インジケーター
スタンバイ状態のときや、リモコンの信号を受信すると点灯します。

③ ON（オン）/STANDBY（スタンバイ）ボタン
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

④ リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

⑤ MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）ツマミ
音量を調整します。

⑥ INPUT（インプット）ボタン
入力を切り換えます。

⑦ LISTENING（リスニング） MODE（モード）ボタン
リスニングモードを切り換えます。

表示部

AUDYSSEY(オデッセイ)表示
自動スピーカー測定中に点滅し、測定後は点灯します。
また、スピーカーの音場補正の設定で、Audyssey(オデッセイ)に設定していると点灯します。

SLEEP(スリープ)表示
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

MUTING(ミューティング)表示
ミューティングが働いているときに点灯、または点滅します。

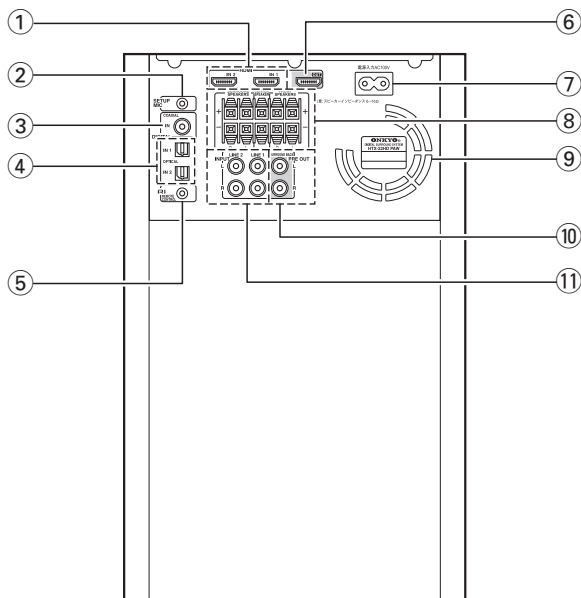
入力音声表示
入力または選択されている音声の種類を表示します。

多目的表示部
入力ソースと音量を表示します。
リモコンの表示ボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットやリスニングモードを表示します。

デジタル入力信号フォーマット/リスニングモード表示
入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

入力信号表示

表示	入力信号
PCM	PCM
DD D	Dolby Digital
dts	DTS
AAC	AAC
DD D+	Dolby Digital Plus
DD HD	Dolby TrueHD
dts EXP	DTS Express Audio
dts HD HR	DTS-HD High Resolution Audio
dts HD MSTR	DTS-HD Master Audio
DSD	Direct Stream Digital
T-D	Theater-Dimensional

後面パネル

① HDMI IN 1/2端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子です。

② SETUP MIC端子
Audyssey 2EQ機能を使ってスピーカー設定をするときにのみ使用します。付属の測定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。付属のマイク以外のものは接続しないでください。

③ DIGITAL IN COAXIAL端子
デジタル音声の入力端子です。市販の同軸デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器を接続します。

④ DIGITAL IN OPTICAL 1/2端子
デジタル音声の入力端子です。付属のオーディオ用光デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器を接続します。

⑤ RI REMOTE CONTROL端子
RI 端子付きのオンキヨー製品と接続し、連動させるための端子です。RI ケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑥ HDMI OUT端子
本機からデジタル映像信号をテレビなどに出力する端子です。設定により、デジタル音声信号も同時に出力することができます。

⑦ 電源入力AC100V端子
付属の電源コードを接続します。

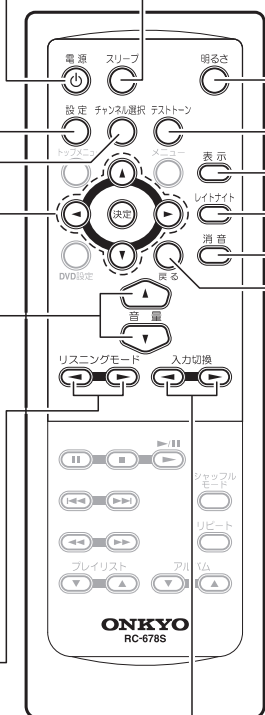
⑧ SPEAKERS端子
(FRONT/CENTER/SURROUND)
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーを接続する端子です。

⑨ 放熱用ファン
本体内部の温度が上昇した時に、ファンが回ります。

⑩ PRE OUT(SURROUND BACK)端子
左右サラウンドバックスピーカーをパワーアンプなどを経由して、接続する端子です。

⑪ LINE 1/2 INPUT端子
オーディオ用ピンコードでビデオデッキなどのライン出力(アナログ)端子と接続します。

リモコン(RC-678S)

● 本機を操作するときのボタン

スピーカーを接続する

ホームシアターを楽しもう

センタースピーカーやサラウンドスピーカーを追加してホームシアターを楽しみましょう。本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。再生する信号や、接続するスピーカーの数によって、DTS やドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

本機と接続するスピーカーの使いかた

付属のスピーカー（HTX-22HDST）のみの場合：
左右フロントスピーカーとして使用します。（2.1チャンネル再生）

HTX-22HDSTを含めて3つお持ちの場合：
左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。（3.1チャンネルサラウンド）

HTX-22HDSTを含めて4つお持ちの場合：
左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（4.1チャンネルサラウンド）

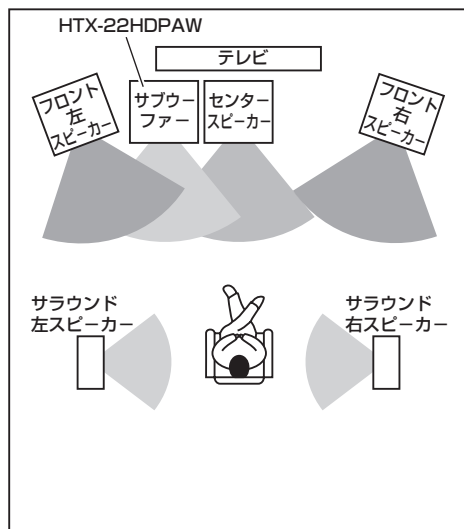
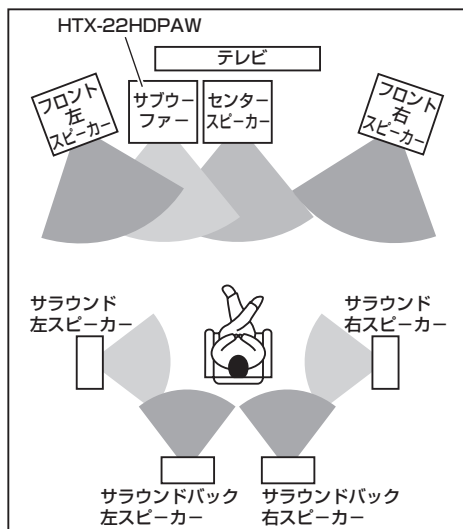
HTX-22HDSTを含めて5つお持ちの場合：
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（5.1チャンネルサラウンド）HTX-22HDSTを左右サラウンドスピーカーとして使用してもかまいません。

HTX-22HDSTを含めて6つお持ちの場合：
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。（6.1チャンネルサラウンド）

HTX-22HDSTを含めて7つお持ちの場合：
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。（7.1チャンネルサラウンド）HTX-22HDSTを左右サラウンドバックスピーカーとして使用してもかまいません。

！ヒント

弊社では、増設用のスピーカーとして、下記の製品を別売にてご用意いたしております。
- センタースピーカー D-11C（1個）
- サテライトスピーカー D-11M（2個組）

スピーカーを接続する

5.1チャンネルの配置例

7.1チャンネルの配置例
(サラウンドバックスピーカーを使用する時は、別途アンプが必要です。)

上の図のように、すべてのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。しかし、センタースピーカーやサラウンドスピーカーがないときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大に引き出します。

サブウーファー（HTX-22HDPAW）
低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。

左右フロントスピーカー（HTX-22HDST）
総合的に音声を出力します。ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。視聴位置の前方に配置します。音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対象が理想です。

センタースピーカー（本機には付属していません）
左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

左右サラウンドスピーカー（本機には付属していません）
臨場感を高める役割を果たします。効果音などで音の立体的な動きを表現します。視聴位置の横または後斜めに配置します。左右対象で視聴者の耳より１m高い位置が理想です。

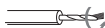
左右サラウンドバックスピーカー（本機には付属していません）
サラウンドチャンネルの空間表現力を高め、移動音効果や後方の音場を一層リアルに表現します。
視聴者の耳より1m高い位置にスピーカーを配置するのが理想です。

- 左右サラウンドバックスピーカーの接続は、本機後面パネルのPRE OUT(SURROUND BACK)端子を使用して行います。詳しい接続方法は、20ページをご覧ください。

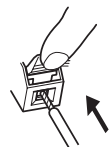
接続の前に

付属のスピーカーコードの準備をします。

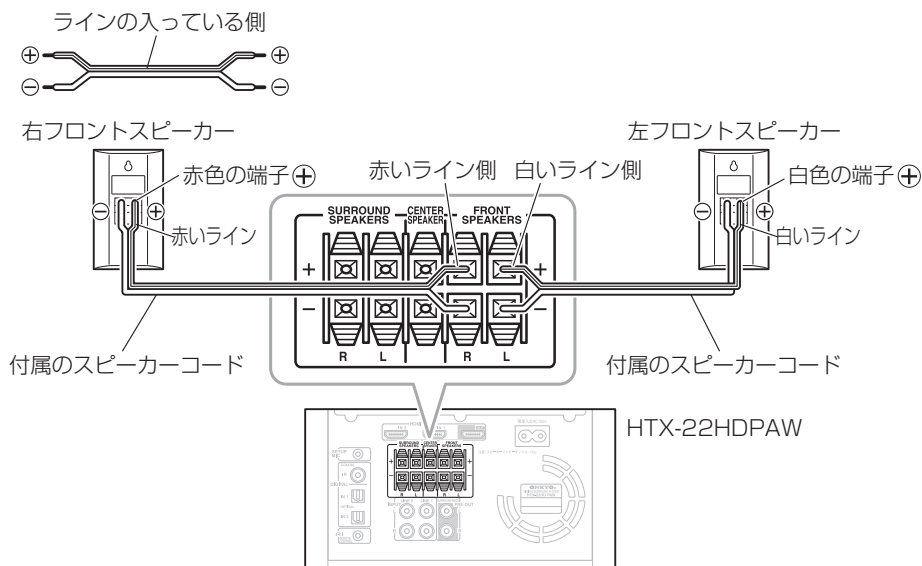
① **スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。**

② **しん線をよじります。**

スピーカー端子への接続方法

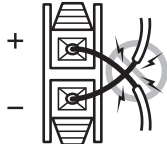
① **レバーを押します。**

② **しん線を穴の中に入れます。**

③ **レバーを離します。**

付属のスピーカーだけを使った基本の接続

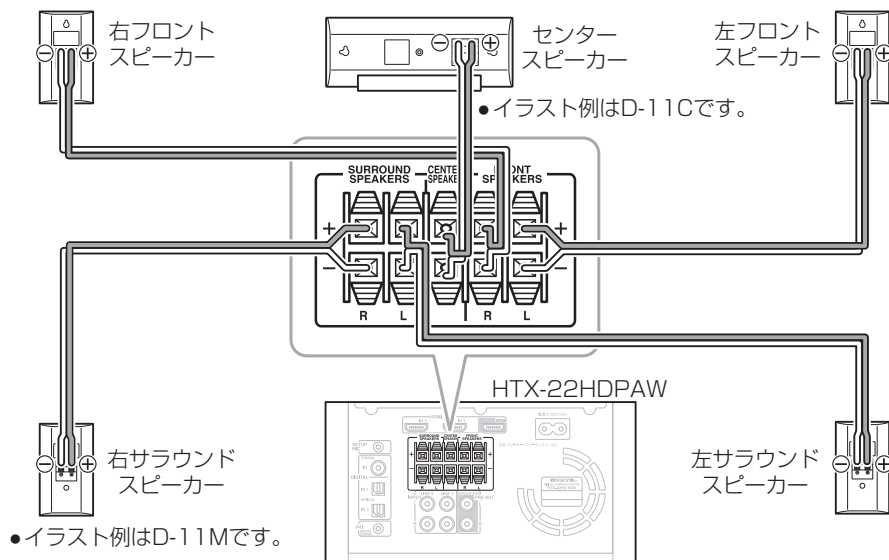
付属のスピーカー（HTX-22HDST）を接続します。ここでは、スピーカーを左右フロントスピーカーとして使用する場合の接続方法を説明します。スピーカーコードに入っている線を参考に、スピーカーのプラス ⊕ と本機のプラス ⊕、スピーカーのマイナス ⊖ と本機のマイナス ⊖ を接続します。

ご注意

プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

複数のスピーカーを使った接続

使用されるスピーカーの数によって、接続する端子を選んでください。
組み合わせるスピーカーは6Ω以上のものをご使用ください。スピーカーのプラス⊕と本機のプラス⊕、スピーカーのマイナス⊖と本機のマイナス⊖を接続します。

■ 5.1チャンネル接続の場合

ご注意

プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください。(☞31 ページ)

！ヒント

別売りの3chスピーカー内蔵TVラック CB-SP1380などを組み合わせてお使いになる場合

左右フロントスピーカー、センタースピーカーの3つのスピーカーをTVラックに内蔵していますので、本機に付属しているスピーカーを左右サラウンドスピーカーとしてお使いいただくことができます。
接続に関しての詳細は、TVラックの取扱説明書をご覧ください。

別売りの3chスピーカー内蔵TVラック

本機を収納する専用 BOX も装備していますので、すっきりと美しく、本格的なホームシアターをお楽しみいただけます。

●イラスト例は、CB-SP1380 です。

■ 7.1チャンネル接続の場合

右フロント
スピーカー

センター
スピーカー

左フロント
スピーカー

●イラスト例はD-11Cです。

SURROUND SPEAKERS
CENTER SPEAKER
FRONT SPEAKERS
R L R L

HTX-22HDPAW

右サラウンド
スピーカー

左サラウンド
スピーカー

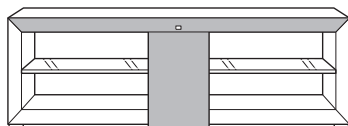
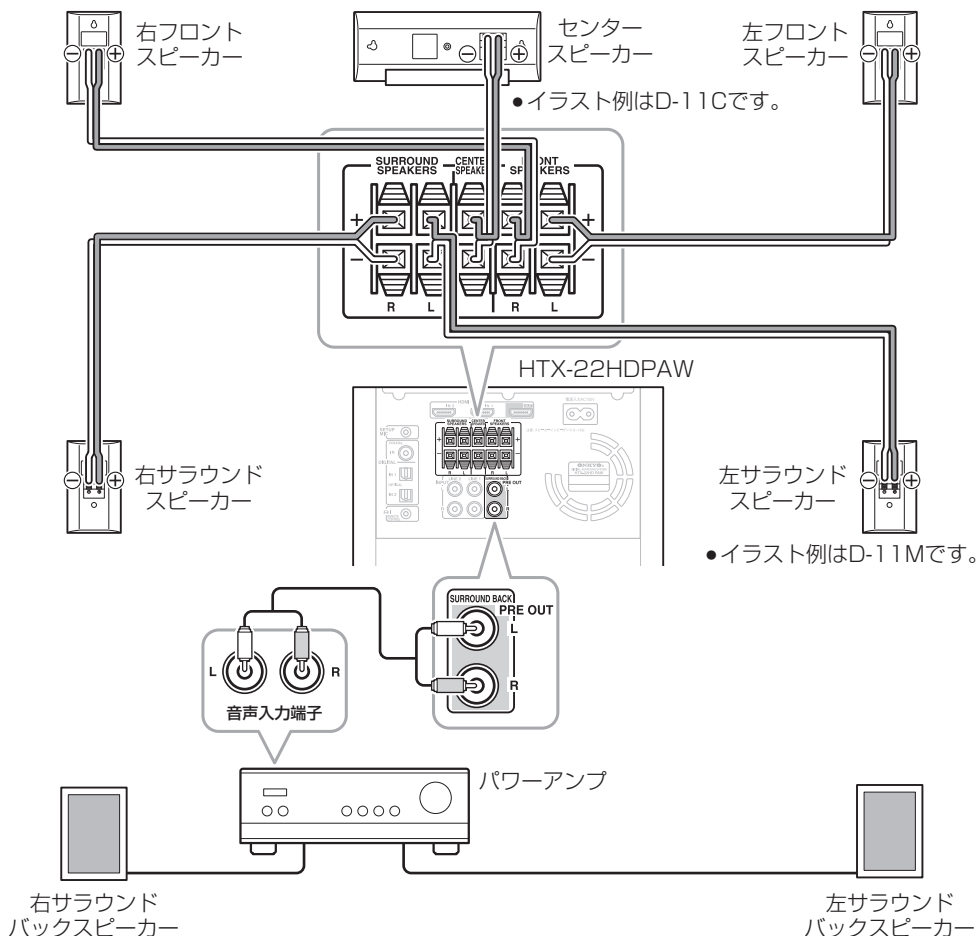
●イラスト例はD-11Mです。

SURROUND BACK
PRE OUT
L
R

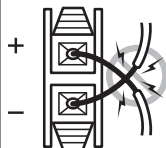
L R
音声入力端子

パワーアンプ

右サラウンド
バックスピーカー

左サラウンド
バックスピーカー

7.1チャンネル接続する場合は、前ページの5.1チャンネル接続に加えて、本機のPRE OUT(SURROUND BACK)端子とパワーアンプの音声入力端子をオーディオ用ピンコードで接続します。左右サラウンドバックスピーカーは、パワーアンプのスピーカー端子に接続してください。

ご注意

プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。
また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

● 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください。(☞31 ページ)

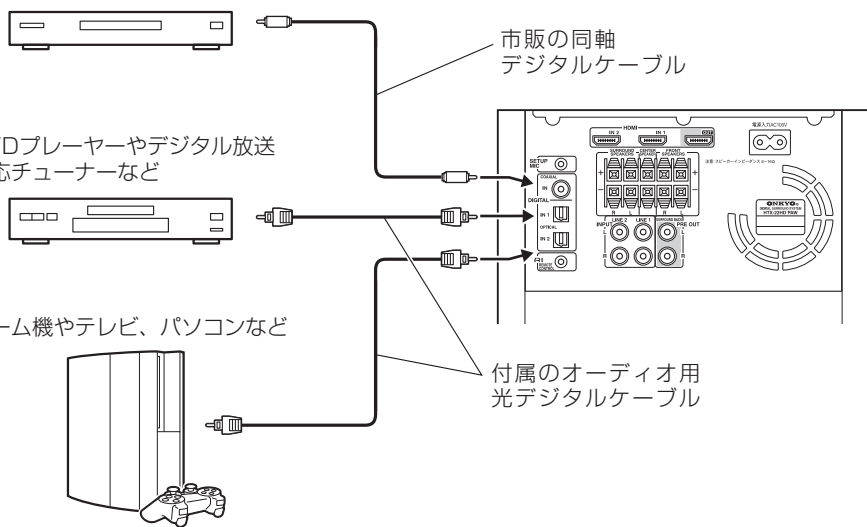
AV機器やゲーム機を接続する

● HDMIに関する接続は、23～25ページをご覧ください。
● DVDプレーヤーなどでドルビーデジタル、DTSサラウンド信号を再生するためには、DIGITAL IN（OPTICAL1/2またはCOAXIAL）端子への接続が必要です。
● パソコンでデジタルサラウンドを楽しむには、デジタル出力〔OPTICAL（光）またはCOAXIAL（同軸）〕に対応したパソコンや音源ボードが必要です。お手持ちの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

デジタル音声機器の接続をする

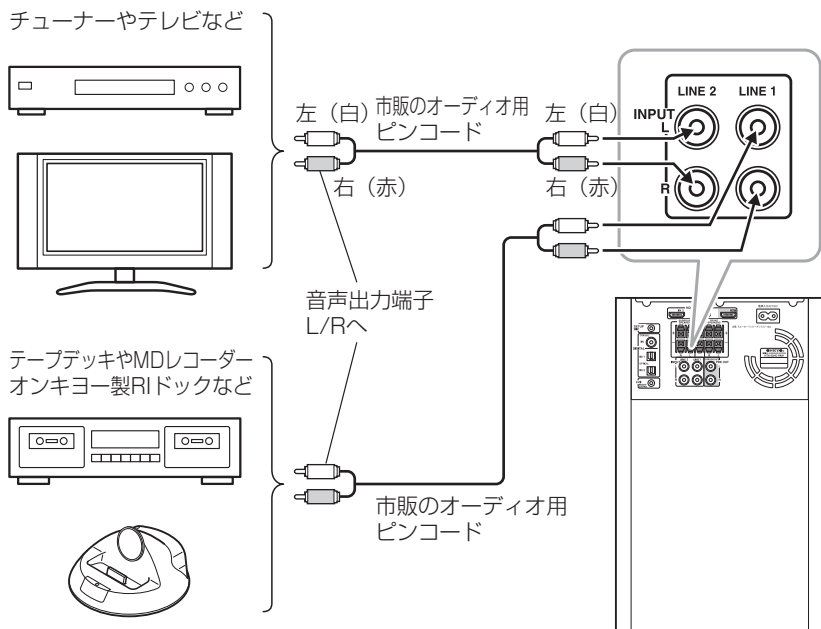
DVDプレーヤーやCDプレーヤー、地上、BS、110度CSなどデジタル放送対応チューナー、ゲーム機、パソコンなどのデジタル音声出力端子（光/同軸）と本機のDIGITAL IN（OPTICAL1/2またはCOAXIAL）端子を付属のオーディオ用光デジタルケーブルまたは市販の同軸デジタルケーブルで接続します。接続した機器の音声がデジタルでサラウンド再生されます。
本機では音声接続のみです。映像接続は映像機器から直接テレビに接続してください。
本機のDIGITAL IN端子は、光（OPTICAL）が2つ、同軸（COAXIAL）が1つありますので、3種類の機器が接続できます。接続する機器に付いている端子の形状に合わせてご使用ください。

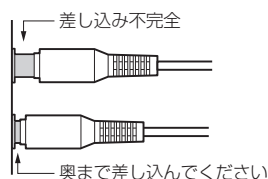
！ヒント

- 接続したあと、入力の割り当てを行ってください。（☞36ページ「音声入力端子の設定をする」参照）
- オーディオ用光デジタルケーブルを使用するときは、折り曲げたり、きつく巻いたりしないでください。
- 接続する機器のデジタル音声出力設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によってはドルビーデジタル信号やDTS信号の出力設定が「オフ」になっていることがあります。
- 本機のDIGITAL IN(OPTICAL1/2)端子は、とびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにしてオーディオ用光デジタルケーブルを差し込んでください。
- 本機にはインテリボリューム機能があります。機器間の音量差が気になる場合にお使いください。（☞68ページ）

ご注意　オーディオ用光デジタルケーブルは、まっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

アナログ音声機器の接続をする

テレビやビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機のLINE（ライン） 1/2 INPUT（インプット）端子を市販のオーディオ用ピンコードで接続します。接続した機器の音声がアナログでサラウンド再生されます。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

！ヒント

- 接続したあと、入力の割り当てを行ってください。（☞36ページ「音声入力端子の設定をする」参照）
- 本機にはMusic（ミュージック） Optimizer（オプティマイザー）機能があります。MP3などの音楽信号をお聞きになるときにお使いください。（☞68ページ）

HDMI端子を使って接続する

HDMI(High（ハイ）-Definition（ディフィニション） Multimedia（マルチメディア） Interface（インターフェース）)とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ/プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。

従来のDVI(Digital（デジタル） Visual（ビジュアル） Interface（インターフェース）)＊[1]規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMIケーブルを1本接続するだけで、HDMI端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

本機のHDMIインターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.3a

対応音声フォーマット

- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1ch、32～192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD、DTS、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTSエクスプレス、DTS-HD マスターオーディオ、DSD、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権保護について

本機はHDCP(High（ハイ）-bandwidth（バンドウィドゥス） Digital（デジタル） Contents（コンテンツ） Protection（プロテクション）)＊[2]に対応しています。HDCPとは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器もHDCPに対応していることが必要です。

本機のHDMI OUT端子とテレビ/プロジェクターなどのHDMI入力端子を接続します。接続には、市販のHDMIケーブルをご使用ください。

＊[1] DVI（Digital（デジタル） Visual（ビジュアル） Interface（インターフェース））：DDWG＊[3]が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

＊[2] HDCP（High（ハイ）-bandwidth（バンドウィドゥス） Digital（デジタル） Content（コンテンツ） Protection（プロテクション））：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要になる。

＊[3] DDWG(Digital（デジタル） Display（ディスプレイ） Working（ワーキング） Group（グループ）)：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続のしかた

HDMI接続では、HDMIケーブルで映像信号と音声信号を同時に伝送することができます。

ステップ1： HDMIケーブルを使って本機のHDMI端子とDVDレコーダーやDVDプレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどのHDMI端子と接続してください。
初期設定の割り当ては、HDMI 1がVCR/DVR入力、HDMI 2がCBL/SAT入力になっています。

ステップ２： 接続した HDMI IN 端子が初期設定と異なる場合は、35 ページの「HDMI 入力端子の設定を変更する」で設定してください。

■ 映像信号の流れ

HDMI IN端子から入力したデジタル映像は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。

■ 音声信号の流れ

HDMI IN 端子から入力したデジタル音声は、本機に接続されたスピーカーへ出力されます。

HDMI機器の音声を本機で聞く場合は、テレビにHDMI機器の映像が映る状態にしておいてください。
（本機が接続されているHDMI入力をテレビ側で選んでください）HDMIは、映像機器側の認証により映るしくみになっているため、テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

！ヒント

HDMI IN端子から入力した音声信号を、HDMI OUT端子から出力してテレビなどのスピーカーで聞きたい場合は、71ページで「Audio TV Out」設定を「On」にしてください。また、DVDプレーヤーなどの設定で、HDMIに出力する設定を2チャンネルPCMになるように設定してください。

HDMI端子を使って接続する

ご注意

- 前もってテレビ側の解像度に合わせてDVDプレーヤー等の解像度を調整しておいてください。
- HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVIと原理的に互換性があります。DVI端子を装備したテレビ/モニターなどに接続するにはHDMI→DVI変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機はHDCPを使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。
- 本機を通してHDMI接続した機器の音声を楽しむときは、機器側で映像がテレビ画面に映るように設定してください。（テレビ側の入力設定も確認してください。）テレビの電源がオフのときやテレビの入力が正しく選ばれていないと、本機からの音声が出ないことがあります。
- HDMI音声信号は、接続機器により制約されることがあります。HDMI接続している機器から入力される画像の品質がよくなかったり、音声が出なかったりするときは、機器側の設定を確認してください。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI機能のあるオンキヨー製品を本機にRIケーブル、オーディオ用ピンコードで接続すると、次のシステム機能を使うことができます。RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。

オートパワーオン

本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。
また、本機の電源を入、切すると接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ダイレクトチェンジ

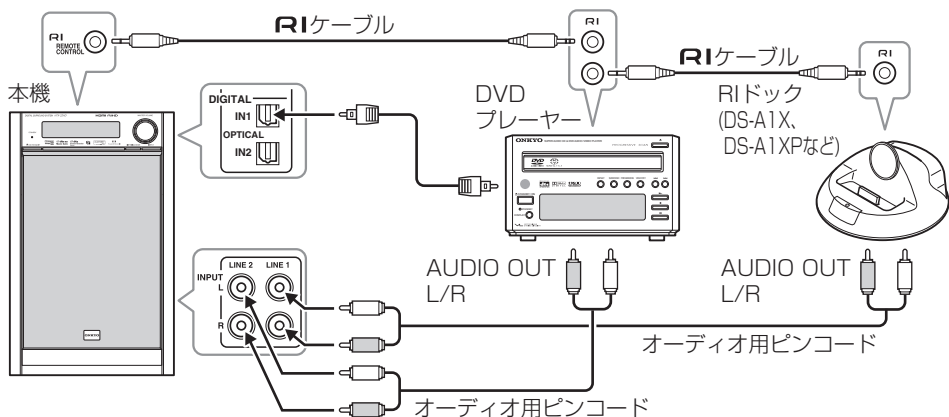
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作

本機に付属のリモコンでDVDプレーヤーやRIドックに乗せたiPodを操作することができます。接続については下記を、入力表示の設定のしかたについては38ページを、操作できる機能については27ページをご覧ください。

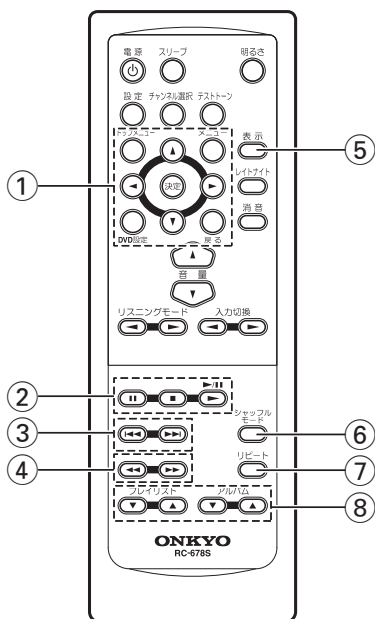
■ RIケーブルの接続

RI端子付きオンキヨー製品でシステムアップした場合、システム機能を使うことができます。（本機にはRIケーブルは付属していません。各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。）

- 操作は本機に付属のリモコンを使用します。 HTX-22HDPAWのリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
- RIドックを接続したときは、TAPE(テープ)入力をDOCK(ドック)に切り換え（☞38ページ）、その入力にRIドックを接続した端子を割り当ててください。（☞36ページ）

- RI端子はRI端子付き製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 接続が正しくないと各機能は働きません。上記を参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

システム機能について

オンキヨー製DVDプレーヤーやRIドックを接続すると、下記のリモコン操作ができます。

- 機器の接続については21、22ページを、RI接続については前ページを、入力の割り当てについては36ページを、入力表示については38ページをご覧ください。所定の接続や設定をしないと、下記の操作はできません。

ご注意

- 空欄はボタンを押しても動作しません。
- 第3世代iPodの場合、▶/Ⅱ、⏮/⏭、◀◀/▶▶ボタンのみ働きます。
- iPodのファームウェアのバージョンアップ等により、操作できる機能の範囲や内容が変更になることがあります。
- それぞれのボタンの働きについての詳細は、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 入力が「DVD」、「DOCK」のときは、スタンバイ時に▶（プレイ）ボタンを押すと本機の電源が入り、接続している機器の再生が自動的に始まります。

	入力名称 / リモコンのボタン名	DVD	DOCK
①*[1]	トップメニュー	TOP MENU	
	メニュー	MENU	MENU
	▲/▼	▲/▼	▲/▼
	◀/▶	◀/▶	
	決定	ENTER	SELECT
	DVD設定	SETUPまたはDVD SETUP	
	戻る	RETURN	
②	Ⅱ	Ⅱ	
	▶（▶/Ⅱ）	▶	▶/Ⅱ
	■	■	
③	⏮/⏭	⏮/⏭	⏮/⏭
④	◀◀/▶▶	◀◀/▶▶	◀◀/▶▶
⑤	表示	DISPLAY*[2]	BACKLIGHT*[2]
⑥	シャッフルモード	PLAY MODE	SHUFFLE
⑦	リピート	リピート	REPEAT
⑧	プレイリスト▲/▼		PLAYLIST▲/▼
	アルバム▲/▼		ALBUM▲/▼

*[1] 設定、チャンネル選択、テスト音の操作中は、▲/▼/◀/▶/決定/戻るボタンはHTX-22HDPAWを操作するボタンとして働きます。このとき、トップメニュー/メニュー/DVD設定ボタンは働きません。
*[2] 3秒間長押しすると、記載の機能として働きます。

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

> HDMIコントロール機能（☞70～72ページ）を使う場合は、RI端子を使ったテレビとの連動機能は使用できません。本ページで説明するRI接続はしないでください。

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

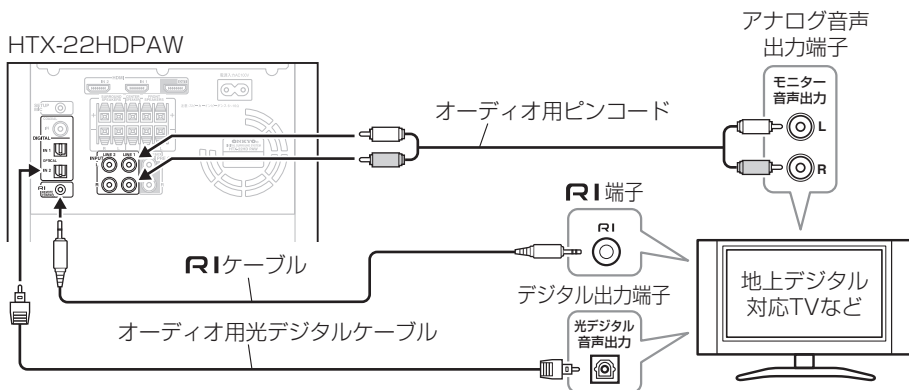
① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え､本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また､テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）を操作することができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）を操作できるようになります。

> 連動動作が可能なテレビかどうかについては、テレビのカタログや取扱説明書で、テレビにRI端子が装備されていることをご確認ください。
> 本機にRIケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

1. テレビのデジタル音声出力端子をオーディオ用光デジタルケーブルでHTX-22HDPAWのDIGITAL IN OPTICAL2 端子に接続します。
2. テレビのアナログ音声出力端子をオーディオ用ピンコードでHTX-22HDPAWのLINE1または2 INPUT 端子に接続します。
3. RI端子どうしをRIケーブルで接続します。
他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしをつないでください。
RI端子が2つある製品の場合、2つの端子の働きは同じですのでどちらにでもつなげます。

設定のしかた

36ページを参照して設定を行ってください。初期設定では、あらかじめ「OPT2」に設定されています。

1. HTX-22HDPAWの電源を入れる。

2. HTX-22HDPAWのINPUTボタンを（くり返し）押し、「GAME/TV」を表示させる。

3. 次の方法でGAME/TV入力にOPT2を割り当てる。

① リモコンの設定ボタンを押して「1.Input Assign」を表示させ、決定ボタンを押します。

② ▼ボタンで「Audio Input」を表示させ、決定ボタンを押します。

③ ▲/▼ボタンで「GAME/TV」を表示させ、◀/▶ボタンで「OPT2」を選びます。

④ 設定ボタンを押して設定を終了します。

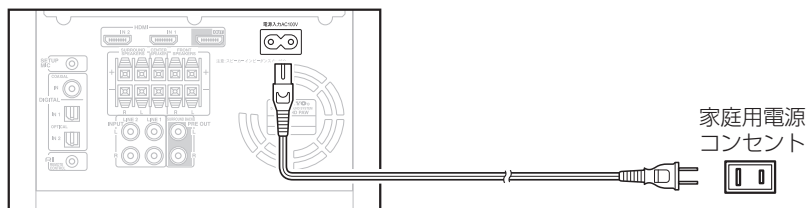
ご使用上の注意

テレビを連動させる場合、LINE1または2端子の接続も必要ですが、入力割り当ては「OPT2」をご使用ください。「LINE1」や「LINE2」でもご使用いただけますが、アナログ接続のため、リスニングモードのAAC 5.1chなどの再生ができません。

電源コードを接続する

ご注意

- **付属の電源コード以外の電源コードは使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外の機器には使用しないでください。故障や事故の原因となります。**
- 電源コードのプラグを壁の電源コンセントに接続したまま、本機の電源入力 AC100V 端子から電源コードを抜いたり、つないだりすると感電する場合があります。電源コードを接続するときは、先に本体側の電源入力 AC100V 端子に接続し、抜くときは、最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。
本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れる場合がありますのでコンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

電源コードのプラグを家庭用電源コンセントに接続すると、STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯し、スタンバイ状態になります。

電源を入れる

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

本体前面パネルのON（オン）/STANDBY（スタンバイ）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す

STANDBY（スタンバイ）インジケーターが消え、表示部が点灯します。

自動スピーカー設定をする（Audyssey 2EQ機能）

付属の測定用マイクを使って、自動的にスピーカーの数、低音の調整，サブウーファーの最適なクロスオーバー周波数、および視聴位置からの距離を測定します。
また、部屋の中の様々な環境により生じる音のひずみを補正しますので、クリアでバランスのよい音になります。加えて、Audyssey Dynamic EQの働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます。

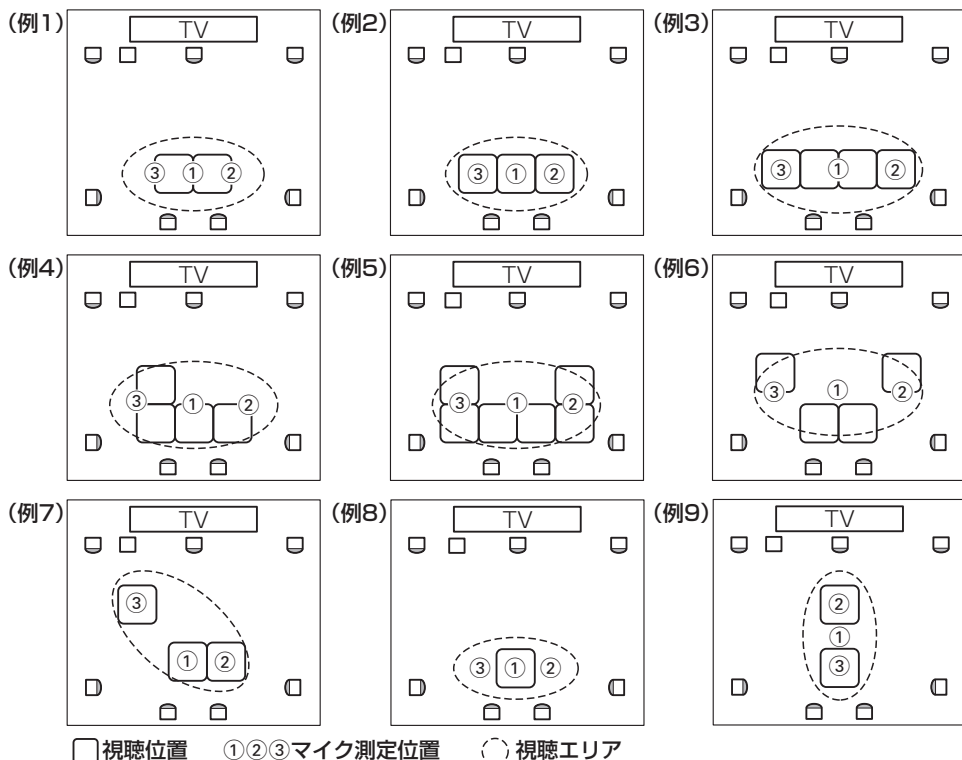
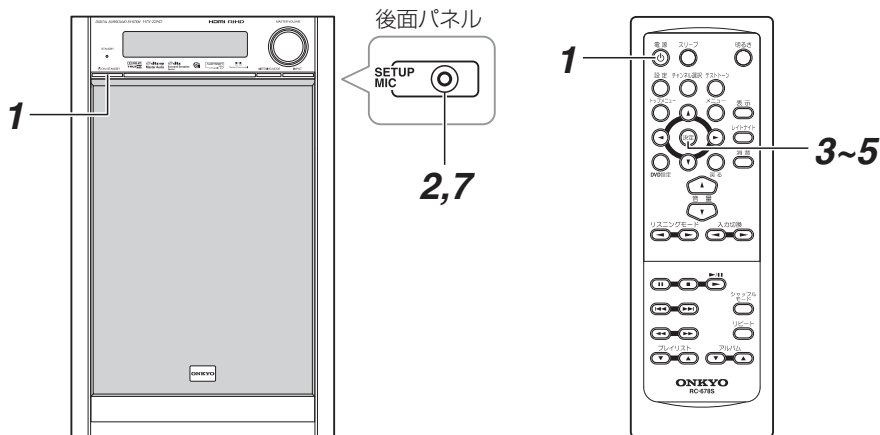
測定のしかた

測定位置は視聴エリア内の3箇所です。下図を参考に測定用マイクを置く位置をご確認ください。
具体的な操作手順については、32、33ページをご覧ください。

① 最初に測定する位置です。視聴エリアの中心、または1人で視聴するときに座る位置です。
② 2番目に測定する位置です。視聴エリアの右側にあたる位置です。
③ 3番目に測定する位置です。視聴エリアの左側にあたる位置です。
①と②、①と③の間は、1m程度またはそれ以上あけるようにしてください。

- すべての測定が終了するまで約10分程度かかります。

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

本体前面パネルのON/STANDBYボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す

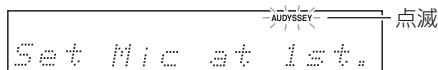
STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

2

付属の測定用マイクを視聴位置に設置してから、マイクのプラグを本機のSETUP MIC端子に接続する

31ページの「測定のしかた」の図を参考に、①の位置にマイクを置いてください。
本体表示部に下記の表示が出ます。

AUDYSSEY ── 点滅

Set Mic at 1st.

ご注意

- マイクは水平に置いてください。手に持ったまま測定しないでください。
- それぞれのスピーカーからマイクの間に障害物があると、正しく測定できません。通常の視聴時と同じ環境にしてください。
- MUTING機能が設定されていると、ミューティングは解除されます。

！ヒント

視聴するときの耳に近い位置にマイクを設置すると、正確に測定できます。三脚や水平な台を使用すると高さを調節できます。

3

決定ボタンを押す

壁ぎわや部屋の隅に下がるなどして、スピーカーとマイクの間に入らないようにして、決定ボタンを押してください。
自動スピーカー設定が始まります。接続したスピーカーからテスト音を出しながらマイクで測定します。完了するまで数分かかります。

AUDYSSEY
Now measuring..

- 測定中は部屋の中をできるだけ静かな状態にしてください。周囲に雑音があると正しく測定できないことがあります。屋外の音、室内の電気製品から出る音や人の話し声などが影響を与えることがあります。
- 測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。

4

測定が終わると下記の表示が出るので、マイクを視聴エリアの右側に置き決定ボタンを押す

31ページの「測定のしかた」の図を参考に、②の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

AUDYSSEY
Set Mic at 2nd.

5

測定が終わると下記の表示が出るので、マイクを視聴エリアの左側に置き決定ボタンを押す

31ページの「測定のしかた」の図を参考に、③の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

AUDYSSEY
Set Mic at 3rd.

6

すべての測定が終わると下記の表示が出た後、自動的に測定結果を計算します

➡
7

下記の表示が出たら、マイクのプラグを抜く

AUDYSSEY ── 点灯
Unplug SetupMic

- 測定が完了すると「スピーカーの音場補正」は、「Audyssey（オデッセイ）」に設定され、「Dynamic（ダイナミック） EQ（イーキュー）」もオンになります。（☞55ページ）

■測定途中に表示されるエラーメッセージについて

ノイズ エラー
Noise Error!

Noise Error!

測定環境の雑音が大きすぎて測定できません。雑音の原因を取り除いて、再度測定してください。（測定していたポイントから再開します）

スピーカー ディテクト エラー
Sp Detect Err!

Sp Detect Err!

このメッセージが表示されると、次のようなエラーが考えられます。

- フロントスピーカーが検出できません。
- サラウンドスピーカーが1つしか検出できません。
- サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。
- 右サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、左サラウンドバックスピーカーが検出できません。
- スピーカーに異常があります。スピーカーが壊れているか、サブウーファーの音量が高域を出しすぎているかもしれません。

スピーカーマッチング エラー
SpMatching Err!

SPMatching Err!

1回目の測定でのスピーカー数と、2、3回目の測定でのスピーカー数が違います。
検出できないスピーカーが正しく接続されているか確認して、再度測定してください。

ライティング エラー
Writing Error!

Writing Error!

測定結果の保存に失敗しました。
2、3度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

■測定をやり直すには

測定をやり直すには決定ボタンを押してください。
検出されないスピーカーがあるときは、正しく接続されているかどうかご確認ください。

ご注意

自動設定された内容を変更したいときは、手動でスピーカー設定を行ってください。(☞58～64ページ)

HDMI 入力端子の設定を変更する（映像）

HDMI IN 1/2端子に、HDMI出力端子のあるDVDプレーヤーなどを接続しているときに設定します。

各HDMI IN端子は1つの入力機器にしか割り当てることができません。割り当てを変更したい場合は、すでに割り当ててある入力ソースの設定を「－－－－－」にしてください。

下記は、DVDプレーヤーを本機のHDMI IN 1端子に接続したときの変更例です。

入力ソース	HDMI 入力端子の初期設定
DVD	－－－－－
VCR/DVR	HDMI 1
CBL/SAT	HDMI 2
GAME/TV	－－－－－
TAPE	－－－－－
TUNER	－－－－－
CD	－－－－－

1

設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「1.Input Assign」を選び、決定ボタンを押す

（インプット アサイン）

```
1.Input Assign
```

3

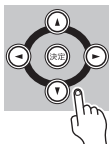
「HDMI Input」と表示されるので、決定ボタンを押す

（エイチディーエムアイ インプット）

設定の表示が出ます。

4

▲/▼ボタンを押して「VCR/DVR:HDMI 1」を選び、◀/▶ボタンで「－－－－－」を選ぶ

5

▲/▼ボタンを押して「設定する入力ソース」(今回の例では「DVD」)を選び、◀/▶ボタンで「HDMI 1」を選ぶ

```
DVD      :HDMI1
```

6

設定ボタンを押す

設定が終了します。

ご注意

HDMI IN 1/2に設定した入力の音声入力端子は、各々自動的に「HDMI IN 1」、「HDMI IN 2」に割り当てられます。(☞36ページ)

音声入力端子の設定をする

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむために必要です。
各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。
- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「LINE 1」または「LINE 2」にする必要があります。

入力	音声入力端子の初期設定
DVD	OPT 1
VCR/DVR	HDMI 1
CBL/SAT	HDMI 2
GAME/TV	OPT 2
TAPE	LINE 1
TUNER	LINE 2
CD	COAX

- 前ページでHDMI端子を割り当てた入力には、本設定にも自動的にHDMI端子が割り当てられます。また、この入力に他のデジタル音声入力を割り当てることもできます。

1

設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「1.Input（インプット） Assign（アサイン）」を選び、決定ボタンを押す

1.Input Assign

3

▲/▼ボタンを押して「 Audio（オーディオ） Input（インプット）」を選び、決定ボタンを押す

DVD :OPT1

▲/▼ボタンを押して「接続した端子」を選び、◀/▶ボタンを押して設定を選ぶ

例：本機後面のDIGITAL（デジタル） IN（イン） OPTICAL（オプティカル） 1端子にDVDレコーダーを接続した場合
VCR/DVRのデジタル入力端子の初期設定は「HDMI1」のため、「OPT1」に設定を変更します。

DVDプレーヤーとアナログ接続のみをした場合
DVDのデジタル入力端子の初期設定は「OPT 1」のため、「LINE 1」または「LINE 2」に設定を変更します。

ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。

- COAX（コアキシャル）：デジタル機器をDIGITAL（デジタル） IN（イン） COAXIAL（コアキシャル）端子に接続している場合に選びます。
- ↓
- OPT 1（オプティカル）：デジタル機器をDIGITAL IN OPTICAL（オプティカル） 1端子に接続している場合に選びます。
- ↓
- OPT 2（オプティカル）：デジタル機器をDIGITAL IN OPTICAL 2端子に接続している場合に選びます。
- ↓
- LINE 1：デジタル機器をLINE（ライン） 1 INPUT（インプット）端子に接続している場合に選びます。
- ↓
- LINE 2：デジタル機器をLINE 2 INPUT端子に接続している場合に選びます。
- ↓
- -----：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない場合に選びます。
- ↓
- HDMI 1*：デジタル機器をHDMI IN 1端子に接続している場合に選びます。
- ↓
- HDMI 2*：デジタル機器をHDMI IN 2端子に接続している場合に選びます。
- （COAXに戻る）

＊35ページでHDMI端子を設定した入力に、そのHDMI端子を割り当てることができます。

5

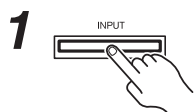
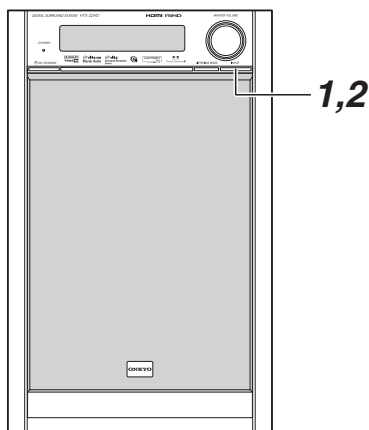
設定ボタンを押す

設定が終了します。

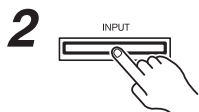
入力表示を切り換える

オンキヨー製のRI端子付きMDレコーダーやCDレコーダー、RIドックを本機のLINE1/2 INPUT端子に接続した場合は、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、接続した機器に合わせて入力表示を切り換える必要があります。

■「TAPE」の表示内容を切り換える

LINE1/2 INPUT端子に、オンキヨー製のRI端子付きMDレコーダー、CDレコーダー、RIドックなどHDD関連機器のいずれかを接続した場合

1 INPUT

INPUTボタンをくり返し押し、表示部に「TAPE」を表示させる

TAPE

2 INPUT

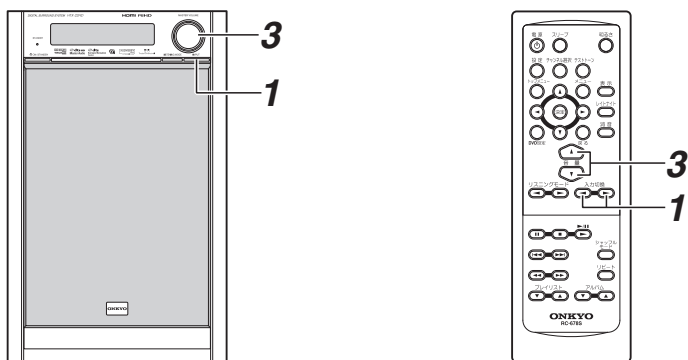
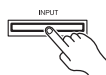
INPUTボタンを約3秒押し続けて、表示を切り換える

MD

CDR

DOCK

この手順をくり返すと「TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TAPE」と表示が切り換わります。

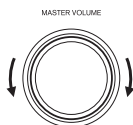
機器を選んで再生する

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

再生する機器を選ぶ

本体のINPUT（インプット）ボタンまたは、リモコンの入力切換◀/▶ボタンを押します。
35～37ページの「音声入力端子の設定」で、何も割り当てなかった入力は選択できません。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。また、DVD対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

本体のMASTER VOLUME（マスター ボリューム）ツマミまたは、リモコンの音量▲/▼ボタンで音量を調整する

音量はMin·1·2·····78·79·Maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント

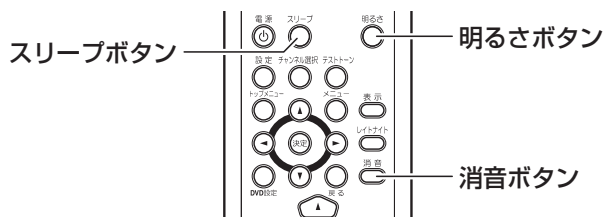
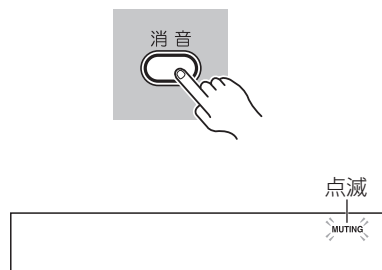
本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは42ページをご覧ください。

！ヒント　音が出ないとき

- **接続を確認する：** 選んだ入力とは異なる端子に接続されている場合があります。上記の手順で入力を切り換え、順番に再生して音が出るかを確認してください。
- **音量を確認する：** 部屋の大きさなどにもよりますが、音量の数値は通常30～45でお楽しみいただけます。音量が小さすぎないか、本体の表示部で音量の数値を確認してください。

一時的に音量を小さくする

リモコンの消音ボタンを押す

音量がごく小さくなり、消音機能が働いている間MUTINGインジケーターが点滅します。

解除するには…

もう一度消音ボタンを押してください。
MUTINGインジケーターが消え、元の音量に戻ります。

音量調整をしたり、本機をスタンバイ状態にしたときも解除されます。

表示部の明るさを変える

リモコンの明るさボタンを押す

押すたびに表示部の明るさが3段階に切り換わります。

→ ふつう → やや暗い → 暗い ─┐（ふつうに戻る）

スリープタイマーを使う

リモコンのスリープボタンを押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になる設定になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

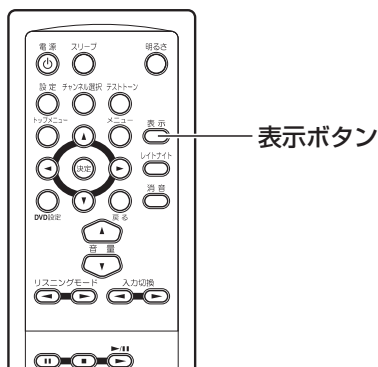
- スリープタイマー動作中は、SLEEPインジケーターが点灯します。

残り時間を確かめるには

スリープタイマー動作中にスリープボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。
ただし、残り時間が10分以下の表示のときに、再びスリープボタンを押すとスリープタイマーは解除されます。

スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまでくり返しスリープボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れてください。

表示を確認する

表示ボタンをくり返し押す

表示ボタンを押すたびに、表示内容が下記のように切り換わります。
● 入力されている信号により、表示される内容は異なります。

● 入力信号がアナログのとき

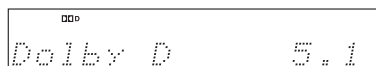
入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

STEREO
DVD 48

● 入力信号が PCM のとき

→ 入力ソースと音量 → サンプリング周波数* → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数* →

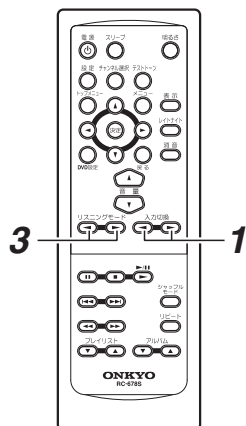
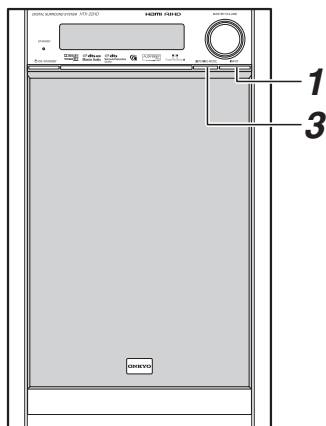
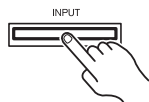
● 入力信号が PCM 以外のデジタル信号のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号とフォーマット* → 入力ソースとリスニングモード → 入力信号とフォーマット* →

* 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約 3 秒経過すると、元の表示に戻ります。

● 入力信号がAACの音声多重放送(2ヶ国語放送など)のとき

リスニングモードを使う

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

INPUT

入力切換

本体の INPUT ボタンまたはリモコンの入力切換◀ / ▶ボタンを(くり返し)押し、再生したい機器を選ぶ

表示部に選んだ入力とリスニングモードが表示されます。

2

選んだ機器を再生する

3

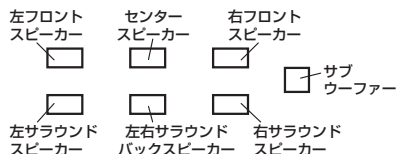
本体のLISTENING MODEボタンまたはリモコンのリスニングモード◀/▶ボタンを押して、リスニングモードを選ぶ

ボタンを押すたびに、モードが切り換わります。
選べるモードは入力信号の種類によって異なります。46 ～ 52 ページの表をご覧ください。

DVD Surr Sens

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。本機には以下のリスニングモードがあります。

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。

Direct

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。58ページ「スピーカー環境の設定」で、「Subwoofer」を「No」に設定した場合のみ、選択することができます。

Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Dolby Pro Logic IIx

2チャンネルで収録された音楽や映画を6.1から7.1チャンネルで再生できます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。
5.1チャンネルで収録された音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。

- Dolby PL IIx Movie
  VHSやDVDビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- Dolby PL IIx Music
  CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDに適しています。
- Dolby PL IIx Game
  ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIxの代わりに、このリスニングモードになります。
2チャンネルで収録された音楽や映画を5.1チャンネルで再生できます。

Dolby Digital

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。Dolby Digitalロゴのついた DVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX/Dolby EX

5.1チャンネルで収録された音楽や映画を6.1/7.1チャンネルで再生できます。
5.1チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録されたDolby Digitalロゴのついた DVD、LDの再生時はDolby Digital EXとなり、その他のソースではDolby EXとなります。

Dolby(ドルビー) Digital(デジタル) Plus(プラス)

Dolby Digital Plusフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。

Dolby(ドルビー) TrueHD(トゥルーエイチディー)

Dolby TrueHDフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。
本機が対応している信号については、49ページを参照してください。

DTS

完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。DTSロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete(ディスクリート)

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1/7.1チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix(マトリックス)

DTS-ES収録ソフトを6.1/7.1チャンネル再生します。
DTS-ES収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1/7.1チャンネルに復元して再生します。
DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo(ネオ) : 6

2チャンネルで収録されたソースを5.1/6.1/7.1チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。

映画に最適なCinema(シネマ)モードと音楽再生に最適なMusic(ミュージック)モードが選択できます。
5.1チャンネルで収録されたDTSロゴのついたDVDやCDの再生時はNeo:6となり、6.1/7.1チャンネルで再生します。

- **Neo : 6 Cinema(シネマ)**
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2チャンネルのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に適しています。
- **Neo : 6 Music(ミュージック)**
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の2チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルで収録されたCDなどに適しています。

DTS-HD High(ハイ) Resolution(リゾリューション) Audio(オーディオ)

DTS-HD High Resolution Audioフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS-HD Master(マスター) Audio(オーディオ)

DTS-HD Master Audioフォーマットのブルーレイ、HD DVDディスクに使用できるリスニングモードです。
本機が対応している信号については、50ページを参照してください。

DTS Express(エクスプレス)

最大5.1ch、48kHzのロービットレート音声です。HD DVDのサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DTS Surround(サラウンド) Sensation(センセーション)

2つのスピーカーで5.1チャンネルサラウンド再生のようなバーチャル再生をするリスニングモードです。
映画だけでなく、音楽でも自然なサラウンドをお楽しみいただけます。

AAC

MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

Multich

HDMI接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

DSD

DSD(Direct Stream Digital)は、スーパーオーディオCDに採用されているフォーマットです。このモードは、DSDフォーマットのSACD再生時に選べます。

■ オンキヨー独自のリスニングモード

Mono Movie

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。モノラルでも臨場感をお楽しみいただけます。

Orchestra

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージを作ります。

Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch Stereo

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

Theater-Dimensional または

2つまたは3つのスピーカーであたかも5.1チャンネル再生しているようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか?(☞21ページ)または、HDMI接続はしましたか?(☞23～25ページ)
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか?
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

■ Analog（アナログ）、PCMソース

入力信号の種類とフォーマット	PCM		マルチチャンネルアナログ	マルチチャンネルPCM					
	32-96 kHz*1	176.4/192kHz*2		32-96kHz*1			176.4/192kHz*2		
				マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	CD,TV,ラジオ		DVD	DVD、ブルーレイディスク			DVD、ブルーレイディスク		
Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●		●	●	●	●	●	●
Mono	●			●	●	●			
Multichannel				●			●		
Dolby PLII Movie/ Dolby PLIIx Movie*3	●			●*6	●				
Dolby PLII Music/ Dolby PLIIx Music*3	●			●*6	●				
Dolby PLII Game/ Dolby PLIIx Game*3	●				●				
Dolby EX				●*6					
Neo:6				●*6					
Neo:6 Cinema	●				●				
Neo:6 Music	●				●				
Mono Movie*4 *5	●			●	●	●			
Orchestra*4 *5	●			●	●	●			
Unplugged *4 *5	●			●	●	●			
Studio-Mix*4 *5	●			●	●	●			
TV Logic*4 *5	●			●	●	●			
All Ch Stereo	●			●	●	●			
Full Mono	●			●	●	●			
T-D *5	●			●	●	●			
Surround Sensation*5 *7	●	●	●	●	●	●			

*1 32/44.1/48/88.2/96kHz
*2 マルチチャンネルの176.4/192kHz PCM信号は、HDMI端子からのみ出力します。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*4 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*5 88.2 kHz、96 kHzのPCMは、それぞれ44.1kHz、48kHzで処理されます。
*6 ソースによっては、選べないことがあります。
*7 Surround Sensationは、32kHz入力信号に対しては対応していません。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

■ Dolby Digital、Dolby Digital Plusソース

入力信号の種類とフォーマット	ドルビーデジタル			ドルビーデジタルプラス		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	DVD, DTVなど			ブルーレイ, HD DVD		
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●	●
Dolby Digital	●					
Dolby Digital Plus				●*1		
Neo:6	●*4			●		
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*2	●*4	●		●	●	
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*2	●*4	●		●	●	
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*1		●			●	
Dolby EX	●*4			●		
Neo:6 Cinema		●			●	
Neo:6 Music		●			●	
Mono Movie*3	●	●	●			
Orchestra*3	●	●	●			
Unplugged *3	●	●	●			
Studio-Mix*3	●	●	●			
TV Logic*3	●	●	●			
All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●			
Surround Sensation	●	●	●	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、入力信号によっては、Dolby Digitalが代わりに使用されます。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*4 ソースによっては、選べないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

ご注意 HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の1つと考えられますが、故障ではありません。

■ DTSソース

入力信号の種類とフォーマット	DTS, DTS 96/24			DTS Discrete/Matrix
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	
主なソース / リスニングモード	DVD, CDなど			DVD, CDなど
Direct	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●
DTS, DTS 96/24	●			
DTS-ES Discrete/Matrix				●*1
Neo:6	●*5			
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*2	●*5	●		
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*2	●*5	●		
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*2		●		
Dolby EX	●*5			
Neo:6 Cinema		●		
Neo:6 Music		●		
Mono Movie*3 *4	●	●	●	●
Orchestra*3 *4	●	●	●	●
Unplugged*3 *4	●	●	●	●
Studio-Mix*3 *4	●	●	●	●
TV Logic*3 *4	●	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●
T-D*4	●	●	●	●
Surround Sensation	●	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*4 DTS 96/24は、DTSで処理されます。
*5 ソースによっては、選べないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。(6.1 または 7.1 チャンネル再生時)

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。(7.1 チャンネル再生時)

■ True HD（トゥルーエイチディー）ソース

入力信号の種類とフォーマット	TrueHD			TrueHD 192kHz		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ, HD DVD			ブルーレイ, HD DVD		
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●			
TrueHD	●			●		
Neo:6	●*2					
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*1	●*2	●				
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*1	●*2	●				
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*1		●				
Dolby EX	●*2					
Neo:6 Cinema		●				
Neo:6 Music		●				
All Ch Stereo	●	●	●			
Full Mono	●	●	●			
T-D	●	●	●			
Surround Sensation	●	●	●			

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。

*2 ソースによっては、選べないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

■ DTS-HDソース

入力信号の種類とフォーマット	DTS-HD High Resolution			DTS-HD Master Audio		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル	2ch	モノラル
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ, HD DVD			ブルーレイ, HD DVD		
Direct	●	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●	●
DTS-HD High Resolution	●					
DTS-HD Master Audio				●		
Neo:6	●*2			●*2		
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*1	●*2	●		●*2	●	
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*1	●*2	●		●*2	●	
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*1		●			●	
Dolby EX	●*2			●*2		
Neo:6 Cinema		●			●	
Neo:6 Music		●			●	
All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●	●	●	●
Surround Sensation	●	●	●	●	●	●

*1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*2 ソースによっては、選べないことがあります。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の 1 つと考えられますが、故障ではありません。

■ DTS Express（エクスプレス）、DSDソース

入力信号の種類とフォーマット	DTS Express			DSD[*1]	
	マルチチャンネル	2ch	モノラル	マルチチャンネル (5.1)	2ch
主なソース / リスニングモード	ブルーレイ, HD DVD			SACD	
Direct	●	●	●	●	●
Stereo	●	●	●	●	●
Mono	●	●	●	●	●
DTS-HD Express	●				
DSD				●	
Neo:6	●[*4]			●	
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie[*2]	●[*4]	●		●	●
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music[*2]	●[*4]	●		●	●
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game[*2]		●			●
Dolby EX	●[*4]			●	
Neo:6 Cinema		●			●
Neo:6 Music		●			●
Mono Movie[*3]				●	●
Orchestra[*3]				●	●
Unplugged[*3]				●	●
Studio-Mix[*3]				●	●
TV Logic[*3]				●	●
All Ch Stereo	●	●	●	●	●
Full Mono	●	●	●	●	●
T-D	●	●	●	●	●
Surround Sensation	●	●	●	●	●

*1 DSD信号は、PCM44.1kHzに変換されてから処理されます。
*2 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
*3 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*4 ソースによっては、選べないことがあります。

ご注意　HD DVD、ブルーレイディスクを再生する場合、ディスクによっては再生中に異音が発生する場合があります。これは音声フォーマットが再生中に切り換わることが原因の１つと考えられますが、故障ではありません。

！ヒント　お手持ちのSACDプレーヤーでPCM出力かDSD出力かを選択できるときは、PCM出力を選ぶことでより良い音質でお楽しみいただける場合があります。

■ AAC ソース

入力信号の種類とフォーマット	AAC		
	マルチチャンネル	2ch	モノラル/マルチプレックス
リスニングモード ＼ 主なソース	地上/BS/110゜CSデジタル		
Direct	●	●	●
Stereo	●	●	●
Mono	●	●	●
AAC	●		
Neo:6	●*3		
Dolby PLII Movie/Dolby PLIIx Movie*1	●*3	●	
Dolby PLII Music/Dolby PLIIx Music*1	●*3	●	
Dolby PLII Game/Dolby PLIIx Game*1		●	
Dolby EX	●*3		
Neo:6 Cinema		●	
Neo:6 Music		●	
Mono Movie*2	●	●	●
Orchestra*2	●	●	●
Unplugged*2	●	●	●
Studio-Mix*2	●	●	●
TV Logic*2	●	●	●
All Ch Stereo	●	●	●
Full Mono	●	●	●
T-D	●	●	●
Surround Sensation	●	●	●

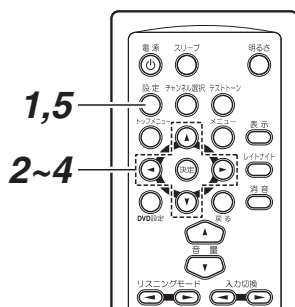
＊1 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby PLIIになります。
＊2 サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
＊3 ソースによっては、選べないことがあります。

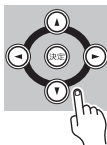
サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。（6.1 または 7.1 チャンネル再生時）

左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。（7.1 チャンネル再生時）

音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整しておくことができます。

1

設定ボタンを押す

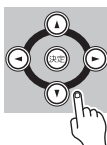
2

▲/▼ボタンを押して「3. Audio（オーディオ） Adjust（アジャスト）」を選び、決定ボタンを押す

設定の表示が出ます。

3.Audio Adjust

3

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

5

設定ボタンを押す

設定が終了します。

Multiplex/Mono時の設定をする

Input (Mux)

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
表示ボタンを押して、表示部に音声の数が「1+1」と表示されたら音声多重放送です。

Main ：主音声を出力します。
（お買い上げ時の設定）
Sub ：副音声を出力します。
M/S ：主音声と副音声の両方を出力します。

Input (Mono)

2チャンネルで収録された入力信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

L+R ：左右チャンネルの信号を両方再生します。
（お買い上げ時の設定）
L ：左チャンネルの信号を再生します。
R ：右チャンネルの信号を再生します。

PLⅡx Music/Neo:6Music時の音質を調整する

ご注意

- 2チャンネル収録された入力信号のみに効果があります。
- スピーカーを2チャンネル（左右フロントスピーカーのみ）に設定しているときは、設定できません。

Panorama

前方の音場を横方向に広げることができます。
お買い上げ時の設定は「Off」に設定されています。

On：パノラマ効果をオンにします。
Off：パノラマ効果をオフにします。

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。お買い上げ時の設定は「0」に設定されています。

! ヒント

- 「0」を中心に、+1、+2、+3にすると後方へ、−1、−2、−3にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II/Dolby Pro Logic IIxでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。お買い上げ時の設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

Center Image

サラウンドスピーカーを接続していないときは、設定できません。
「DTS Neo：6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。お買い上げ時の設定は「2」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

! ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（−6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に効果的です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby EX信号の再生方法を設定する

Dolby EX

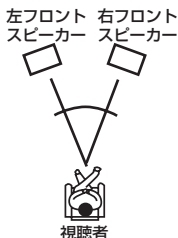
サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラスにのみ効果があります。

Auto：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、リスニングモードがDolby EXに切り換わります。
（お買い上げ時の設定）

Manual：選択可能なすべてのリスニングモードを選ぶことができます。

シアターディメンショナル時の調整をする（T-D）

Listn Angl

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。Wide（広い）、Middle（中間）とNarrow（狭い）の中から選べます。
お買い上げ時の設定はMiddleです。

Front 5.1ch

接続しているスピーカーをすべて前方に置いてシアターディメンショナルを楽しむ場合の設定です。

Yes：スピーカーを前方に置いている場合に選びます。

No：通常の配置にしている場合に選びます。
（お買い上げ時の設定）

Dynamic EQ 機能を使う

Dynamic EQ

この機能は、適切な周波数特性やサラウンド音量レベルを設定するもので、音量の小さいときでもありのままの音を楽しむことができます。

Off：Dynamic EQ機能をオフにします。

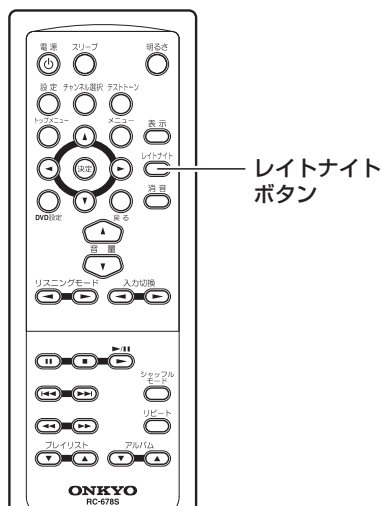
On：Dynamic EQ機能をオンにします。

ご注意

Dynamic EQ機能は、Equalizer 設定が「Audyssey」に設定されているときに働きます。（☞65ページ）

レイトナイト機能を使う

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

レイトナイトボタンを押す

押すたびにモードが切り換わります。

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス

Off（オフ）：レイトナイト機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）
Low（ロー）：音量幅を小さくします。
High（ハイ）：音量幅をさらに小さくします。

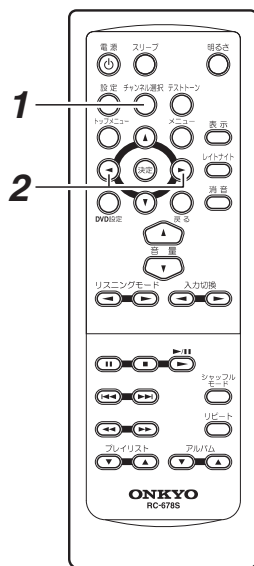
ドルビー TrueHD（トゥルー）

Auto（オート）：レイトナイト機能は、自動でOnかOffに設定されます。（お買い上げ時の設定）
Off（オフ）：レイトナイト機能をOffにします。
On（オン）：音量幅を小さくします。

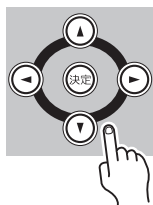
ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD ソフトにのみ効果があります。
- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。

一時的に各スピーカーレベルを調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。
この設定は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

再生中にリモコンのチャンネル選択ボタンを押して、音量レベルを調整するスピーカーを選ぶ

2

◀/▶ボタンを押して、各スピーカーの音量レベルを調整する

◀ボタンを押すと音量が下がり、▶ボタンを押すと上がります。−12dB～+12dBの範囲で設定できます。（サブウーファーは、−15dB～+12dBの範囲で設定できます。）調整後、何も操作せず5秒たつと元の表示に戻ります。

！ヒント

入力ソースにサブウーファー音声要素(LFE)が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

※調整した値を記憶させたい場合は、テストトーンボタンで記憶させることができます。（☞64ページ）

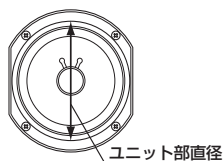
スピーカーの設定をする

この中の多くの設定は自動スピーカー設定（31ページ）で自動設定されています。自動スピーカー設定の後に使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します。

スピーカー環境の設定

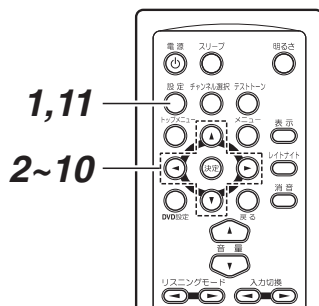
自動スピーカー設定（☞31ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーの「有 / 無」と「大きさ」を設定します。

スピーカーの大きさの目安

目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径 16cm 以上の場合は「Large（ラージ）」、それ以下の場合は「Small（スモール）」を選んでください。

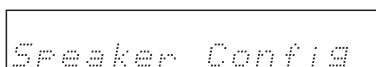
1

設定ボタンを押す

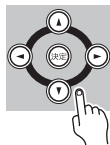
2

▲/▼ボタンを押して「2.Speaker（スピーカー） Setup（セットアップ）」を選び、決定ボタンを押す

スピーカーコンフィグ設定表示が出ます。

```
Speaker Config
```

3

決定ボタンを押すと「Subwoofer（サブウーファー）」を設定する表示になるので、◀/▶ボタンでサブウーファーの「有/無」を選ぶ

Yes（イエス） ：サブウーファーを使用する場合
No（ノー） ：サブウーファーを使用しない場合

4

▼ボタンを押して「Front（フロント）」を選び、◀/▶ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ

Small（スモール）：小型のフロントスピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

手順**3** で「No」を選択した場合、フロントスピーカーは「Large」に固定されるため、この項目は選択できません。

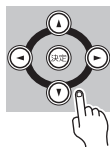
5

▼ボタンを押して「Cntr（センター）」を選び、◀/▶ボタンでセンタースピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型のセンタースピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型のセンタースピーカーを接続している場合
None（ナン）：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

6

▼ボタンを押して「Surr（サラウンド）」を選び、◀/▶ボタンで左右サラウンドスピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合
None（ナン）：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

ご注意

手順**4** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7

▼ボタンを押して「Surr B（サラウンド バック）」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small（スモール）：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
Large（ラージ）：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合
None（ナン）：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

- 手順**6** で「None」を選択した場合は、この項目は選択できません。
- 手順**6** で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。

⇨手順8 に続く

8

▼ボタンを押して「SurrBack Ch」を選び、◀/▶ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch：接続したサラウンドバックスピーカーが1つの場合
（SURR BACK PRE OUT L端子に接続してください。）

2ch：接続したサラウンドバックスピーカーが2つの場合

ご注意

手順*7*で「None」を選択した場合は、この項目は設定できません。

9

▼ボタンを押して「Xover」を選び、◀/▶ボタンで設定する

クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。
目安としてサブウーファーを使用する場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーを使用しない場合は「スピーカーの環境設定」（☞58ページ）で最初に「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20 cm 以上	40/50/60
16 ～ 20cm	80
13 ～ 16cm	100
9 ～ 13cm	120
9 cm 以下	150（初期設定）/200

➪**手順*10* に続く**

Double Bassの設定

この項目は自動スピーカー設定（☞31ページ）では自動設定されていません。

サブウーファーを「Yes（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Large」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

10

▲/▼ボタンを押して「D.Bass」を選び、◀/▶ボタンで設定する

On：サブウーファーを強調します。
Off：サブウーファーを強調しません。

11

設定ボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント 1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

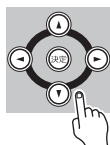
視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

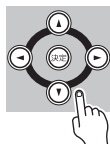
自動スピーカー設定（☞31ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

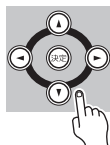
設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「2. Speaker（スピーカー） Setup（セットアップ）」を選び、決定ボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「SpeakerDistance（スピーカーディスタンス）」を選び、決定ボタンを押す

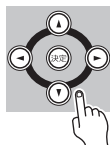
単位を選ぶ設定が表示されます。

```
Unit      :meters
```

4

◀/▶ボタンで設定する「単位」を選ぶ

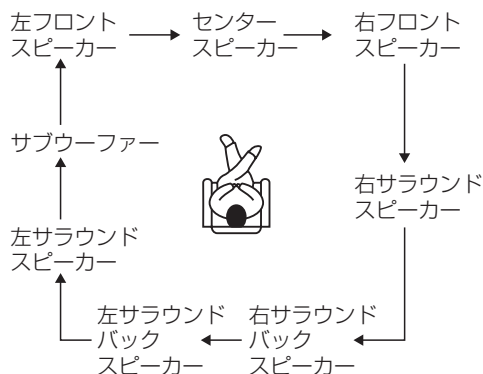
meters（メートル）： 距離をメートルで設定する。0.3m単位で0.3mから9mの範囲で設定できます。

feet（フィート）： 距離をフィートで設定する。1ft単位で1ftから30ftの範囲で設定できます。

5

▲/▼ボタンを押して「Left（レフト）」を選び、◀/▶ボタンで距離を設定する

フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

⇨手順*6* に続く

6 手順*5* をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

！ヒント

- 「スピーカー環境の設定」で、「No（ノー）」または「None（ナン）」を選択したスピーカーは、選択できません。
- センタースピーカー、サブウーファーはフロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で調整できます。
- 左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の－4.5mから＋1.5mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを6mに設定した場合、1.5mから7.5mの範囲で、フロントスピーカーを3mに設定した場合だと、0.3mから4.5mの範囲で調整できます。

7 設定ボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント 1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

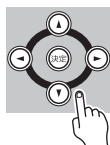
スピーカーの音量レベル調整(レベルキャリブレーション)

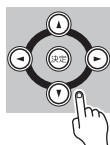
自動スピーカー設定（☞31ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。
● ミューティング中は、設定できません。

1

設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「2.Speaker（スピーカー） Setup（セットアップ）」を選び、決定ボタンを押す

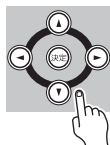
3

▲/▼ボタンを押して「Level（レベル） Cal（キャリブレーション）」を選び、決定ボタンを押す

「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

Left :0.0dB

ご注意

「スピーカー環境の設定」で、「No（ノー）」または「None（ナン）」を選択したスピーカーは、設定できません。

4

▲/▼ボタンでスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンを押してテスト音を調整する

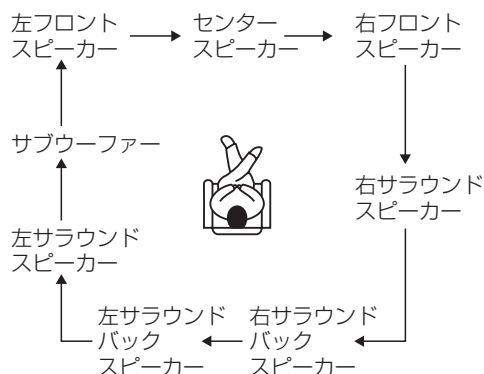
すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- －12dB～+12ｄBの範囲で調整できます。
- サブウーファーは－15dB～+12ｄBの範囲内で調整できます。

⇨手順*5* に続く

5

手順*4*をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

6

設定ボタンを押す

設定が終了します。

！ヒント　1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

テストトーンボタンでテスト音を出して設定することもできます。

① テストトーンボタンを押して、テスト音を出します。
② 次に◀/▶ボタンでテスト音を調整し、チャンネル選択ボタンでスピーカーを切り換えます。
③ もう一度テストトーンボタンを押すと、終了します。

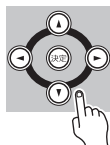
スピーカーの音場補正

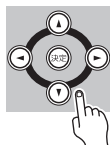
自動スピーカー設定（☞31ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

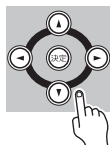
接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は63ページの方法でも調整できます。
ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

1

設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「2.Speaker（スピーカー） Setup（セットアップ）」を選び、決定ボタンを押す

3

▲/▼ボタンを押して「Equalizer（イコライザー）」を選び、決定ボタンを押す

4

◀/▶ボタンを押して「設定」を選ぶ

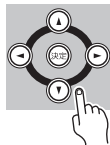
Off（オフ）：すべての音域で同じ音場設定になります。

Audyssey（オデッセイ）：自動スピーカー設定で設定された音場設定になります。
自動スピーカー設定を行わないと選択できません。

Manual（マニュアル）：お好みで設定できます。

「Manual」を選んだ場合は、手順***5*** に進みます。「Off」または「Audyssey」を選んだ場合は、手順***8*** に進みます。

⇨手順*5* に続く

5

▼ボタンを押し、◀/▶ボタンを押して「Ch（チャンネル）」を選ぶ

「スピーカー環境の設定」（☞58ページ）で、「No（ノー）」または「None（ナン）」以外を選択したスピーカーのそれぞれに対して設定できます。

6

▲/▼ボタンで「調整したい音域（周波数）」を選び、◀/▶ボタンで調整する

SW：25Hz、40Hz、63Hz、100Hz、160Hzの周波数を−6dB〜+6dBの範囲で調整できます。

その他のスピーカー：63Hz、250Hz、1000Hz、4000Hz、16000Hzの周波数を−6dB〜+6dBの範囲で調整できます。

！ヒント

63Hzなど、低い周波数は低音域、16000Hzなどの高い周波数は高音域を表します。

7

▲ボタンを押して「Ch（チャンネル）」を選び、◀/▶ボタンで「スピーカー」を選ぶ

手順***6,7***をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

8

設定ボタンを押す

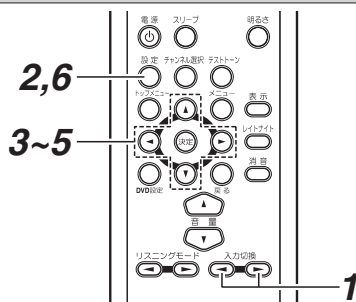
設定が終了します。

！ヒント　1つ前のメニューに戻るには、戻るボタンを押してください。

ご注意

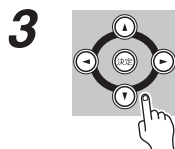
Direct（ダイレクト）のリスニングモードのときは、効果がありません。入力ソースやリスニングモードによっては、働かないことがあります。

ソースの設定をする

1

入力切換◀/▶ボタンで、入力ソースを選ぶ

2

設定ボタンを押す

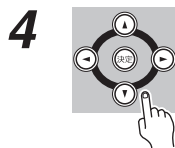
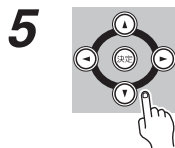
3

▲/▼ボタンを押して「4.Source（ソース） Setup（セットアップ）」を選び、決定ボタンを押す

設定の表示が出ます。

4.Source Setup

4

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

5

◀/▶ボタンで調整する

Name（ネーム） Edit（エディット）を選んだときは、▲/▼ボタンで文字を選び決定ボタンを押す操作をくり返します。（最大10文字まで入力することができます。）

6

設定ボタンを押す

設定が終了します。

機器間の音量差を減らす (IntelliVolume)

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。この表示を出したまま、入力ソースを切り換えて音量を聞き比べながら設定すると便利です。
- −12dB〜＋12dBの範囲の調整できます。

映像と音声の再生にズレがあるとき (A/V Sync)

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。0〜100ms（ミリセカンド：千分の１秒）の範囲を10msステップで、音声の遅延を調整することができます。
再生される映像を見ながら調整します。
0〜100msの範囲を10msステップで調整できます。映像と音声が同期するように、音声の遅延を調整してください。

ご注意
この機能は、リスニングモードを「Direct」にしているときのアナログ信号には働きません。

圧縮信号の音質を良くする (Music Optimizer)

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に便利です。

Off：Music Optimizer機能をオフにします。

On：Music Optimizer機能をオンにします。

ご注意
この機能は、48kHz以下のPCM信号とアナログ信号に働きます。また、リスニングモードが「Direct」のときは、効果がありません。

入力ソースに名前をつけるには (Name Edit)

DVDやVCR/DVRなどの各入力に最大10文字の名前をつけて表示させることができます。
次の文字を使用できます。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
－ . ’ ( ) ＋ ＊ ＝ / , : ; ! ? _ ␣（空白）

▲/▼ボタン：入力する文字を選びます。
決定ボタン：選んだ文字を決定します。
◀/▶ボタン：一度決定した後、修正したいときに文字を選びます。
消音ボタン：一度決定した文字を取り消したいときに押します。

- 一度つけた名前を修正するときも同じ手順で行います。文字を選んで決定ボタンを押すと、新しい文字が上書きされます。
- 元の入力名に戻したいときは、文字をすべて消音ボタンで消すか、空白で上書きしてください。

ボリューム設定をする

1

設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「5. Volume Setup（ボリューム セットアップ）」を選び、決定ボタンを押す

設定の表示が出ます。

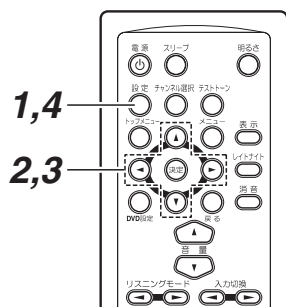
```
5.Volume Setup
```

3

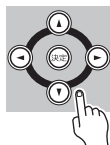
▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

4

設定ボタンを押す

設定が終了します。

Max Volume（マキシマム ボリューム）(最大音量）

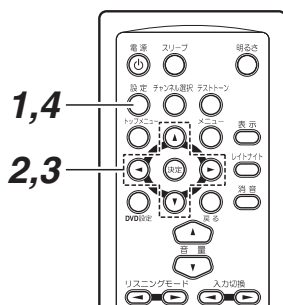
音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大出力レベルを設定することができます。30〜79の範囲内で設定できます。
設定しないときは「Off（オフ）」を選びます。

Power On Volume（パワー オン ボリューム）（パワーオン時音量）

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
Min･1･2…79･Maxの範囲内で設定できます。
ただし、Max Volumeを設定している場合は、その値までしか設定できません。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last（ラスト）」を選びます。

HDMI設定をする

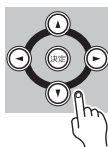
1

設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「6.HDMI Setup（エイチディーエムアイ セットアップ）」を選び、決定ボタンを押す

設定の表示が出ます。

```
6.HDMI  Setup
```

3

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

4

設定ボタンを押す

設定が終了します。

Audio TV Out

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機のHDMI OUT端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聞きたいときなどに設定します。通常は「Off」にしておいてください。
入力信号やテレビによっては、Onにしても音が出ない場合があります。

Off ：出力しません。（お買い上げ時の設定）
On ：出力します。

ご注意

- Audio TV Outの設定が「On」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。
- TV Controlの設定が「Enable」の場合は、「Auto」になります。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「On」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- この設定を「On」にしているとき、またはTV Controlの設定を「Enable」にしているときにテレビを聞いていると、本機の音量を上げると本機に接続しているスピーカーから音が出る場合があります。本機に接続しているスピーカーの音を止めるには、設定を変更するか、テレビの設定を変更、または本機の音量を下げてください。
- この設定を「On」にしているとき、Power Controlの設定を「Enable」にしていると、本機がオン/スタンバイ状態にかかわらずHDMI入力端子から入力される音声/映像信号は、HDMI出力端子に接続しているテレビや他の機器に出力されます。

Lip Sync

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

Disable：自動では補正しません。
Enable ：自動的に補正します。

ご注意

- リップシンク機能はHDMIリップシンク対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- リップシンク機能によって補正される遅延時間を、A/V Syncメニューで確認することができます。（☞68ページ）

x.v. Color

x.v.Color対応のソースやモニターをHDMI接続したときに「Enable」に設定すると、色の表現力が向上します。

Disable：x.v.Colorを使用しません。
Enable ：x.v.Colorを使用します。

ご注意

- 「Enable」にして色がおかしくなる場合は、「Disable」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

Control（コントロール）

本機とHDMI接続したCEC規格対応機器やRIHD*対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

Disable（ディスエイブル）：RIHD Controlを使用しません。

Enable（イネイブル）：RIHD Controlを使用します。

ご注意

- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「Disable」に設定してください。
- 「Enable」に設定して、おかしな動作をする場合は「Disable」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

＊RIHDはオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機ではHDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CECに対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD対応機器と推奨製品以外での動作は保証いたしません。

■ Power Control（パワー コントロール）

この設定は、HDMI Power Control機能に対応した機器に接続している場合にのみ動作します。また、上記の「Control（コントロール）」の設定が「Enable（イネイブル）」の場合に変更できます。HDMIで接続されたRIHD対応機器と、電源連動させたい場合に「Enable」に設定してください。ただし、接続機器が対応していない場合や接続機器の設定の状態によっては連動しない場合があります。

Disable：Power Controlを使用しません。

Enable：Power Controlを使用します。

ご注意

- 「Enable」に設定しているときは、本機の待機電力が増えます。
- 「Enable」に設定しているときは、本機をスタンバイ状態にするとレディモードになり、スタンバイインジケーターが点灯します。
- 「Enable」に設定しているときは、本機がスタンバイ状態においても、HDMI入力端子から入力された映像信号はHDMI出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力されます。Audio TV Outの設定が「On」の場合は、HDMI音声信号もHDMI出力端子から出力されます。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

■ TV Control（コントロール）

この設定は、ControlとPower Controlの両方の設定が「Enable」の場合に変更できます。HDMI接続したRIHD対応テレビから、本機をコントロールしたいときに「Enable」にします。

Disable：TV Controlを使用しません。

Enable：TV Controlを使用します。

ご注意

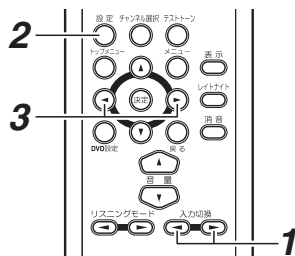
- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「Disable」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- Control、Power Control、TV Controlの設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、再度入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- Audio TV Outを「On」に設定した場合、またはTV Controlを「Enable」に設定し、テレビから音声を出す場合、本機のボリュームを操作すると、本機につながれたスピーカーから音が出るようになります。本機の音を消したいときは、もう一度セットアップ操作やテレビの操作をやり直すか、ボリュームを最小にしてください。

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

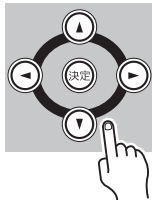
デジタル入力端子が設定されていない入力ソースの場合は設定できません。(☞36ページ)
DTSやPCM信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

1

リモコンの入力切換◀/▶ボタンで設定する機器を選ぶ

2

設定ボタンを約3秒間押し続ける

現在のデジタル入力モード「Auto（オート）」が表示されます。表示の後ろの（　）は入力端子を表します。

3

「Auto（オート）」表示中（約3秒間）に◀/▶ボタンを（くり返し）押して、デジタル入力モードを選ぶ

押すたびに、下記のように表示が切り換わります。

→ Auto ←→ PCM ←→ DTS ←

Auto（オート）(お買い上げ時の設定)：
デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

PCM：
AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。2チャンネルのPCMだけが再生できます。

DTS：
AutoでDTS-CDを再生するとき、DTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS-HD以外のDTS音声を再生できます。

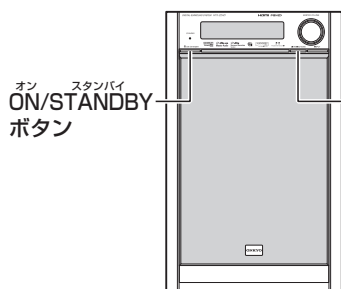
DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他の機器に原因がある場合もありますので、他機器の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

！ヒント 修理を依頼される前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときに、本機のマイコンをリセットすることで、トラブルが解消されることがあります。修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

マイコンのリセットについて

登録したレベル設定などをすべてお買い上げ時の設定に戻したいときは、以下の手順で本機のマイコンをリセットできます。

電源の入った状態で本体のLISTENING MODEボタンを押しながら、ON/STANDBYボタンを押す

表示部に「Clear」と表示され、本機の設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

電　源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

音　声

音声が出ない

- HDMI入力端子の設定や音声入力端子の設定を確認してください。（35、36）
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- 入力が正しく選択できているか確認してください。
- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーコードがショートしていないか、本機背面の端子、コード、スピーカー背面端子をご確認ください。（19、20）
- スピーカーコードの⊕、⊖は正しく接続されているか、スピーカーコードのビニール部分がスピーカー端子にはさまっていないか確認してください。（18）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin･1･2･･･78･79･Maxまで調整できます。一般のご家庭で50前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。（39）
- 接続した再生機器側で出力設定を確認してください。

- HDMI入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。 (73)

エラーメッセージが出る

- 操作中、表示部に表示されるメッセージは以下の内容を意味します。
  Not available： その機能は使えないということを意味します。たとえば、ドルビーデジタル以外の入力信号のためレイトナイト機能が設定できないときなどに表示されます。
  Muting On： ミューティング（消音）機能がONになっているため設定できません。

DTS、PCMのインジケーターが点滅している

- デジタル入力モードを固定している場合、その固定されたフォーマット以外の信号が入力されています。設定を確認し、デジタル入力モードを「Auto」にしてください。 (73)

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない/サブウーファーから音が出ない

- リスニングモードによっては、音声の出力されないスピーカーがあります。他のリスニングモードを選んでください。
- 再生するソースによっては、ドルビープロロジックIIのリスニングモードは音が出にくい場合があります。
  5.1ch対応のDVDソフトやBSデジタルの5.1ch放送は臨場感を表現する信号が含まれていることが多いですが、CDや一般の放送には含まれていないのが一般的ですので、他のリスニングモードをお選びください。
- パソコンやゲーム機、DVDプレーヤーなどの接続した再生機器側で出力設定を確認してください。

音が良くない

- スピーカーコードのプラス⊕/マイナス⊖が正しく接続されているかご確認ください。 (18〜20)
- 自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有/無とクロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。 (31、58)
- ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。 (22)

レコードプレーヤーの音が小さい

- レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵か、お確かめください。
  内蔵していないレコードプレーヤーの場合は別途フォノイコライザーが必要です。

レコードプレーヤーが再生できない

- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。

〈音質について〉
電源投入後10〜30分程度経過した方が音質は安定します。

特定のスピーカーから音が出ない

テスト音は出ますか？

スピーカーの音量レベル調整で、接続したすべてのスピーカーから個別にテスト音が出ているか確認してください。 （63）

表示部にスピーカーの表示は出るが、テスト音が出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  コードが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テスト音も出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。もう一度、自動スピーカー設定をするか、スピーカーの「有/無とクロスオーバー周波数」の設定を手動で行ってください。 （31、58）

テスト音は出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る

- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。 （18～20）

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない

- テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジックIIまたはドルビープロロジックIIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo（ステレオ）」、「Mono（モノ）」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- 入力ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない

- 入力ソースにサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聞くことができない(Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聞くためには、デジタル接続が必要です。

- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力が OFF になっていることがあります。
- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。 （36）

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。 （46）

音量調整が80(Max)以下で終わる

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、設定画面を使ってスピーカーの音量調整をした場合は、音量最大値が変わることがあります。

ノイズが出る
- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない
- 再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHDのいずれかになっているか確認してください。 (56)

DTS 信号について
- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS インジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても DTS インジケーターが点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI 入力音声が頭切れする
- HDMI信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

リ モ コ ン

リモコンが働かない
- 電池の極性（⊕、⊖）が、表示通り正しく入っているか確認してください。 (10)
- 電池を 2 本とも新しいものと交換してみてください。
（種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用はさけてください） (10)
- リモコンと本体の間が離れすぎていませんか？リモコンと本体の間に障害物がありませんか？ (10)
- リモコン受光部に強い光（インバータ蛍光灯や直射日光）が当たっていませんか？ (10)
- **オンキヨー製 DVD プレーヤーや RI ドックの操作ができない**
- オンキヨー製他機器と RI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。RI ケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RI ケーブルだけでは正しく連動しません） (26)
- リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。 (10)
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。 (38)

他機器との接続

接続した機器の音が出ない
- 入力切り換えを確認してください。
- オーディオ用光デジタルケーブルが折れ曲がったり損傷していませんか？
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、別売のフォノイコライザーを中継してください。

テレビの映像がにじむ
- テレビからスピーカーを離してください。

その他

自動スピーカー設定中に「Noise Error!」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。 (34)

多重音声の言語を切り換えたい

- 「Input (Mux)」で主音声 / 副音声を選択します。 (54)

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。 (62)

音量に関する設定を希望通りの数字にできない

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、ボリューム設定をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。 (69)

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CD レンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）

ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）

ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビー EX（Dolby EX）

映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）

ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）

ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を7.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス（Dolby Digital Plus）

ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネルをサポートします。

ドルビー TrueHD（Dolby TrueHD）

ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数で最大5.1チャンネルをサポートします。

DSD（Direct Stream Digital）

スーパーオーディオCDに採用された方式です。100kHzをカバーする再生周波数範囲と可聴帯域内120dB以上のダイナミックレンジが確保できるので、原音に近い音声で録音・再生ができます。

DTSデジタルサラウンド(DTS Digital Surround)

米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)

従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート (DTS-ES Discrete)

5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)

映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS Express

DTS社が開発した最大5.1ch、48kHzのロービットレート音声です。HD DVDのサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DTS96/24
DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

DTS-HDハイレゾリューションオーディオ（DTS-HD High Resolution Audio）
DTS社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネルをサポートします。

DTS-HDマスターオーディオ（DTS-HD Master Audio）
DTS社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイ、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHzのサンプリング周波数で、最大7.1チャンネル、192kHzのサンプリング周波数で最大5.1チャンネルをサポートします。

Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含むすべての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート･フォー･インテグレーティド･サーキット（Fraunhofer IIS)、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のMPEG音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で同軸コードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換するときの精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1つ、フロントスピーカー 2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1つ、フロントスピーカー 2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー 2つで7ch（7チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

主な仕様

■ アンプ内蔵サブウーファーシステム（HTX-22HDPAW）

形式	アンプ内蔵バスレフ型
アンプ部	
入力感度/インピーダンス	150mV/47kΩ（FL/FR）
実用最大出力	30W×5（FL/FR/C/SL/SR、1kHz・6Ω/JEITA） 60W（SW, 100Hz・3Ω/JEITA）
サブウーファー再生周波数範囲	35Hz～200Hz
アンプ再生周波数範囲	FL/FR：10Hz～100kHz（Direct時） FL/FR/C/SL/SR：150Hz～20kHz、＋1/－3dB SW：20Hz～150Hz、＋1/－3dB（Crossover：150Hz時）
SN比	105dB（LINE1/LINE2 Direct時、IHF-A）
キャビネット内容積	7.1リットル
外形寸法（幅×高さ×奥行）	207×325×327mm（サランネット、ターミナル突起部含む）
質量	10.6kg
デジタル音声入出力端子	入力：3（OPT1、OPT2、Coaxial）出力：0 映像/音声入力：2（HDMI1、HDMI2）映像音声出力：1（HDMI）
アナログ音声入出力端子	入力：2（LINE1、LINE2）出力：1（PREOUT SBL/SBR）
使用スピーカー	16cmOMFコーン型
防磁設計	有（JEITA）
電源	AC100V（50/60Hz）
消費電力	110W

■フロントスピーカーシステム（HTX-22HDST）

形式	2ウエイ
定格インピーダンス	6Ω
最大入力	40W
定格感度レベル	80dB/W/m
定格周波数範囲	70Hz～50kHz
クロスオーバー周波数	9kHz
キャビネット内容積	1.1リットル
外形寸法（幅×高さ×奥行）	101×175×111mm（サランネット、ターミナル突起部含む）
質量	0.8kg
使用スピーカー	
ウーファー	8cmA-OMFコーンウーファー×1
ツイーター	2cmバランスドームツイーター×1
ターミナル	プッシュ式
防磁設計	有(JEITA)

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 HTX-22HD
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　10：00～18：00
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

G0804-1

SN 29344713